

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
地域との連携－ボランティア－
2005～2013









長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
地域との連携－ボランティア－
2005～2013

ごあいさつ

ボランティア活動への感謝と期待

長崎歴史文化博物館
館長 大堀 哲

我が国の博物館が急速に変化し始めたといわれてから20年余になる。とかく伝統的体質、閉鎖性が指摘されてきた国公立博物館でさえ、その運営に目を見張るような新機軸を見せるようになった。その契機になったのは、20世紀後半に教育のシステムが学校教育中心から生涯学習時代へと大きく変わったことにある。人々の生涯学習への需要が多様化、高度化、個別化し、その新しい需要に対応できる施設としては、すべての分野を網羅する館種、国公立・私立と幅広い設置者などの観点から博物館が最適とされ、博物館の斬新な運営が緊要になったのである。

博物館は地域住民のニーズに応え、地域文化の向上は勿論、地域の活性化等に寄与する施設へと確実に変わったといえる。地域の人々に親しまれる開かれた施設づくりに、博物館員は研究成果に基づく魅力ある展示、多彩な教育プログラム、地域と連携したイベントの実施など、意欲的に取り組み出したのである。

8年半前にスタートした長崎歴史文化博物館も、当然その新しい流れを大切に、しかも地域に開かれた、そして地域経済にも十分寄与できる全国のモデル博物館を目指した。その際の重要なキーポイントが、地域社会の理解とバックアップであり、博物館活動への地域住民の参加を得ることだった。当博物館では開館前からボランティアの協力を得られる準備が進められていた。そのことも幸いしてこれまで総じて一人一人が長崎の歴史や文化に対して自発的学習に取り組み、その学んだ成果を来館者に伝えるという姿勢が養われている。定期的、継続的に、かつ情熱を傾けて来館者サービスに徹しているボランティアすべての方々に、改めて敬意と感謝の念を深くしている。

これからは、ボランティア活動が情報というソフトを伝えることを再確認し、その資料情報を観覧者にどのようにわかりやすく伝えるか、自らの言葉として伝える手法を一段と工夫されるよう期待したい。あくまでも観覧者サイドに立つてのソフト提供であることを忘れず、自らの知識を一方向的に伝えることのないように留意するのはいうまでもない。

そしてボランティアは自らの過去の経験やノウハウ、知識などを観覧者に伝えることによって、広い意味で「知」と「経験」を次世代に継承しているという誇りをもって、活動していただければと思う。

まだまだ課題を抱えている当博物館のボランティア活動であるが、本報告書をご一読いただき、今後の充実・発展を期すために忌憚のないご指摘・ご意見を賜れば幸いである。

2014年3月

目次

1. 博物館と地域をつなぐーボランティア活動8年を振り返ってー	4
2. ボランティア活動概要	8
3. ボランティア活動に関するアンケート調査結果	15
4. ボランティアの声	22
5. 【寄稿】ボランティアと共に進化する博物館を目指して	34
資料編	39

1. 博物館と地域をつなぐ —ボランティア活動 8 年を振り返って—

教育普及グループリーダー
竹内 有理

はじめに

2005年の博物館開館から8年が経過した。県内はもとより全国から、そして海外からも多くの人々が博物館を訪れ、企画展や様々な事業を展開してこられたのは、博物館職員だけの努力によるものでは決してなく、地域の人々の力によるところが大きい。地域の人々に理解され愛されなければ、博物館は単なる箱物に過ぎなくなり、活力を失ってしまう。そのためにも、日頃から地域で活動する団体や企業、自治会、学校、大学、行政関係機関などによりよい関係をつくっていくことが必要となる。開館以来、これら様々な団体や機関との関係も徐々に拡大しており、そのことが博物館運営の重要な支えとなっていることは確かである。

地域との関係の構築のしかたには様々な形があるが、そのなかでも博物館運営の重要な部分を担っているのがボランティアである。ボランティアは博物館の運営スタッフであると同時に、博物館を頻繁に利用する利用者でもある。そして何とんでも博物館と地域をつないでくれる重要なパイプ役であるといえる。博物館の開館時から150名以上のボランティアと一緒にスタートできたことは博物館にとって大変ありがたいことであった。現在115名のボランティアが登録しているが、開館から8年経ったいま、これまでのボランティア活動を改めて振り返り、今後の更なる発展をめざしたいと思う。本報告書がその一助になれば幸いである。

1. ボランティアの導入にあたって

近年、ボランティアを導入する博物館は増加傾向にある。1990年代からの生涯学習社会の進展や、1995年の阪神淡路大震災以降のボランティアに対する関心の高まりが博物館におけるボランティアの普及を促したと言われている。長崎歴史文化博物館においても、開館準備の段階からボランティアの導入が検討された。すでに述べたように、地域社会との関係を強化する必要性や来館者へのサービスを充実させるためにボランティアの導入は欠かせないものであると考えた。

博物館が開館した2005年は、長崎市が翌年から本格的に実施することになった「長崎さるく」がスタートした時期とも重なる。また、市民が原爆遺構や原爆資料館を案内する平和案内人というボランティア活動も行われていた。その意味では、歴史関係の分野において、ボランティアとして市民が地域で活動する土壌はすでにあつたといえることができる。

そのようななか、博物館開館前の2005年5月に博物館で活動するボランティアを募集したところ、1回目の説明会に170人もの市民が参加した。その後、10回に及ぶ研修が行われ、初年度は138人が登録した。博物館へ

の期待や関心が非常に高かったことを物語っている。旧県立美術博物館と旧市立博物館、県立図書館の3つの施設に点在していた資料が長崎歴史文化博物館に統合され、長崎の歴史と文化について学べる一大拠点施設がオープンしたのである。郷土の歴史に興味がある人々にとって、長崎歴史文化博物館は期待の施設であったといえる。一方、県と市の資料が統合されたことや、当時全国に先駆けて導入された指定管理者制度を採り入れ、民間企業（㈱乃村工藝社）が施設の管理運営を行うことに対して疑念の声があったことも確かである。

このように大きな期待と不安を抱えながら博物館開館に向けての準備が始まった。

2. ボランティアにとっての博物館、 博物館にとってのボランティア

本報告書に収録しているボランティアを対象に行ったアンケート調査の結果からもわかるように、博物館でボランティアを始めようとした動機は、「社会のために役立ちたい」という理由よりも「長崎の歴史や文化について興味があるから」という理由が多い。このことから、博物館でのボランティア活動が、社会への奉仕活動や慈善活動という意味合いではなく、自分自身の学習を深めたいという生涯学習を目的としている人が多いのが特徴といえる。また長崎の歴史文化を子どもや観光客に伝えたいからという理由も同じように多く見られたことからわかるように、学んだことを来館者に伝えることで、自己実現が得られるのも博物館でのボランティア活動の特徴であるといえるだろう。

さらに、人との出会いも博物館でのボランティア活動を支えている大きな原動力になっているといえる。博物館はその性質上、子どもから高齢者まで様々な年齢層の人々が集まる。居住地も地元の人、県内外から来る人、外国人など様々である。博物館で活動していなければ決して出会うことがなかったであろう様々な人々に出会えることも、ボランティア活動を行う喜びになっているのではないだろうか。展示について説明した後、お客様に感謝されることもボランティア自身の満足につながっている。中にはお客様をご案内して、その後、文通を始めたという人もいる。

ボランティア登録者の圧倒的多数を60代と70代が占めている。退職後、時間が自由になり、ボランティアに来ることで、生活にリズムができたという人もいる。そして社会とつながりを持ち続けられる点も、特に高齢者や仕事を持たない主婦にとってはボランティア活動をする意義なのかもしれない。

一方、博物館からみたボランティア導入の意義とは何であろうか。地域とのつながりの強化という点以外に、お客様へのサービスの質の向上や博物館が行う事業の充実化が挙げられる。展示を観る際に、一人で静かに観たいという人はもちろん多いが、説明を聞くと内容がもっと理解できておもしろいという人も多い。作品鑑賞によって満足感が得られる美術館の展示と異なり、歴史の展示は背景にある基礎知識を持っていないと理解が難

しいこともある。そうならないように工夫するのが展示をつくる学芸員の力量でもあるのだが、展示と来館者をつなぐ人による解説があれば、理解へのかなりの助けになる。このような点でボランティアの果たす役割は大きい。

ボランティアは様々な経験、知識、技術を持った人々の集まりでもある。博物館が依頼したことや、研修を通して学んだことを単に反復して来館者に伝えるのではなく、ボランティア自身の経験や知識、技術などと相まってその人の個性や深みが表れることにより魅力が増すのである。語学が得意な人は語学力を発揮してもらい、読み聞かせの経験がある人には、こども向けのお話し会に協力してもらいなど、ボランティアが持っている様々な力を借りることでサービスの充実化がはかられている。私たち職員が親やそれ以上の年齢のボランティアから教えられることは多い。ボランティアの経験や技術をもっと発掘して博物館の活動に活かしていきたい。

3. さらなる発展のために

2013年現在、展示案内ボランティアとして登録している人は101名、寸劇ボランティアとして登録している人は15名いる。展示案内ボランティアの中で50名が2005年の開館時から8年間もの間活動を続けてくれている。これらの方々には心から敬意を表したい。当館ではボランティアの登録期間は1年としているが、本人の意思さえあれば登録を更新し継続できるようになっている。ずっと活動を続けてくださっている方々がいる一方で、年齢や体調、転居等様々な理由により辞められた方も多い。展示案内ボランティアについては、これまでに6回、新規の募集を行った。登録人数でいえば、平成20年度の157名をピークに現在は101名で最も少ない。寸劇ボランティアについても、平成18年度の41名をピークに現在は15名とやはり最少人数となっている。

このようなボランティアの登録人数の減少傾向は何を意味しているのか。単に年齢や体調だけの理由では片付けられない問題を孕んでいるように思う。ボランティアに楽しく生き生きと活動してもらうためには、博物館として然るべき環境を整える必要がある。細かなことを挙げればきりがなが、重要なことは以下の3つに集約されるのではないかと思う。一つは理念の共有化、二つめは信頼関係の構築、三つめは切磋琢磨である。

博物館でボランティアとして活動してもらうにあたり、博物館のめざす方向や運営の考え方に賛同してもらわなくてはならない。博物館とボランティアが違った方向を向いていたら、来館者へのサービスも望ましくないものになってしまう。博物館の運営理念や目標、年度毎の事業計画など、私たち職員がボランティアにきちんと説明し、情報公開を十分行ってきたかという点も必ずしもそうとはいえないのではないか。博物館の運営スタッフとしてお客様の最前線で活動してもらい以上、そのような情報や意識の共有化は重要である。

もう一つの課題は信頼関係である。ボランティア同士、そしてボランティアと職員との信頼関係がなければ、よりよいボランティア運営はできな

い。特に職員とボランティアの信頼関係は極めて重要である。人と人との関係なので合理的に片付けられないことも多いが、日頃から接触し、コミュニケーションを密にすることが信頼関係を築く大前提となる。ボランティア担当職員には特にそれが求められるが、担当以外の職員も含めて、ボランティアと日頃から言葉を交わし、コミュニケーションをとることが博物館とボランティアの信頼関係づくりにつながっていく。

三つめにボランティア活動の継続と発展のために、ボランティアも博物館もお互いに切磋琢磨していくことが求められる。博物館でのボランティア活動は、固定的なものでもルーチンワークでもない。変化や成長や発見があるからこそ、活動が続けられるのである。ボランティア各人が自己学習していくことも大切であるが、博物館もボランティアの学習活動を支援していく必要がある。ボランティア研修の実施はその一つである。長崎の歴史や文化に関するもの、来館者サービスに関するもの、博物館の役割や機能に関するものなど、様々なテーマの研修を実施することにより、ボランティアの意識やモチベーションを高め、その結果として、お客様に提供するサービスが向上することが期待される。質の高いボランティア活動が質の高い博物館活動となっていくのである。

最後にボランティアの高齢化の問題について触れたい。現在活動しているボランティアのほとんどが60代と70代で、20代から50代の現役世代はほとんどいないのが現状である。現役を引退した後の第二、第三の人生としてボランティア活動を始める人が多いことは当然のことであるが、現役世代の若者にもボランティアとして博物館で活躍してもらおう場を広げていきたい。博物館で異世代の人々と触れ合い、社会経験を積むことは、若者にとって将来に向けての大きな経験になる。博物館にとっても若者の新しい感覚を取り入れることは大きな財産となる。

当館が標榜する「進化する博物館」の実現のために、これからもボランティアとともに切磋琢磨しながら博物館活動の充実と発展に努めていきたい。

2. ボランティア活動概要

1. ボランティア導入の経緯

これからの博物館運営の重要な鍵となるのが、博物館と地域をつなぐ市民の存在であるという認識に立ち、ボランティアの導入は必須のものであると考えた。2005年4月に指定管理者による博物館の開館準備がスタートしてから2ヶ月後の6月、博物館の活動を支援するボランティアの募集を開始した。7月に行った説明会には約170名の市民が参加し、新しくオープンする博物館の概要について熱心に耳を傾けた。その後、11月の開館までの4ヶ月間にボランティアとして活動するために必要な知識や技術を身につけてもらうための研修を10回実施し、138名がボランティアとして登録し、活動を開始することとなった。

2005年5月～6月	ボランティア募集
2005年7月2日	説明会
2005年7月～10月	ボランティア研修（全10回）
2005年11月3日	博物館開館 活動開始

2. ボランティア登録者数

○展示案内ボランティア

	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度
女性	73名	60名	80名	89名	78名	47名	52名	66名	49名
男性	65名	54名	65名	68名	64名	59名	56名	50名	52名
全体	138名	114名	145名	157名	142名	106名	108名	116名	101名

○平均年齢

	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度
全体	58.7歳	60.3歳	59.9歳	65.6歳	62.3歳	64.4歳	65.0歳	64.8歳	63.7歳

3. 活動内容

ボランティアの活動内容としては以下のものがある。

○展示案内ボランティア

常設展示室において、個人の来館者や団体客に展示についての説明を行う。特定の展示コーナーだけを説明する場合と展示室全体を案内する場合とある。また学校団体の見学の際には、あらかじめ博物館職員と学校の先生との間で打ち合わせをした見学内容に応じて、ボランティアが説明や学習の支援を行う。学校団体の対応として、館内の案内だけでなく、まちに出て史跡めぐりのガイドを行うこともある。





【外国語グループ】

外国人の来館者に対して外国語で展示室の案内を行う。言語は英語、中国語の2カ国語で対応している。2014年3月現在の登録者数は、英語12名、中国語3名となっている。英語ボランティアについては、展示室のキャプションの一部を英語に翻訳する作業や寸劇の概要を英語で説明する資料の作成を行った。

○業務支援ボランティア

ポスターやチラシの発送作業や、新聞の切り抜きとファイリング、ボランティア通信の発行、教育普及活動の運営などを行っている。年6回実施している幼児向けの教育プログラム「はくぶつかんのおはなし会」では、紙芝居や絵本の読み聞かせを行うほか、折紙づくりや子ども向けワークショップの運営に協力している。

○保存環境ボランティア

博物館における資料保存活動の一部を市民とともに行うことにより、資料の保存管理に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成23年度より保存環境ボランティアを導入した。IPM (Integrated Pest Management 総合的有害生物管理) の考えに基づき、露出展示を行っている展示物のメンテナンス(清掃)や、展示室内の環境モニタリング(目視点検)等を行っている。

○その他

(1) 企画展ボランティア

ボランティアの活躍の場を広げるために、平成24年度より企画展での展示解説や学校見学の対応、ワークショップ等の運営を行う企画展ボランティアを導入した。企画展にもボランティアが係わることにより、企画展に対する理解を深めてもらうことができ、また、それによって人々に企画展の素晴らしさを伝えてもらう広報の役割も担ってもらうことができた。

(2) 「奉行所夏祭り」実行委員会

博物館の恒例行事となっている奉行所夏祭りの実施にあたって、平成23年度よりボランティアと近隣自治会と博物館職員による夏祭り実行委員会を立ち上げ、企画から運営までを担当することになった。すでに登録しているボランティアから参加者を募り、実行委員会のメンバーとして活動した。夏祭りでは、ボランティアによるブースを設置し、ヨーヨーの販売と金魚すくいを行った。

(3) 古文書ボランティア

旧長崎市立博物館の近世文書会を引き継いだもので、平成21年度まで長崎奉行所関係史料等の翻刻作業を行った。平成22年度で解散。

4. 活動条件等

(1) 応募条件

- ① ボランティア活動や博物館の活動に興味・関心・熱意を持ち、来館者との交流に意欲的な方
- ② 博物館の展示・運営・活動趣旨に賛同される方
- ③ 事前研修に参加できる方
- ④ 原則月4回以上、少なくとも1日3時間は活動に参加できる方
 - ・団体向けの展示案内はボランティア活動を一定期間経験した後、別途研修を受ける。
 - ・高校生以上を対象とする。(高校生は保護者の同意が必要)

(2) 活動時間

午前8時30分～午後6時30分の中で4区分の時間帯で1日3時間

(3) 交通費

活動に対する報酬はなし。当館の規定に従い交通費の実費(往復上限1000円)を支払う。

(4) 登録期間

登録期間は1年とするが、更新届けを提出すれば更新できる。

(5) 保険

ボランティア保険に加入する。(博物館負担)

(6) 特典

- ・常設展の年間無料観覧
- ・博物館主催の企画展招待券の提供
- ・各種チケット購入の割引
- ・ミュージアムショップ、レストランでの割引(10%)
- ・講演会などの各種行事の案内

5. ボランティア研修

ボランティアとして博物館で活動を行ってもらうにあたり、博物館側がボランティアに期待すること、やってもらいたいことを明確に伝えておく必要がある。両者の間に齟齬があると、来館者へのサービスにマイナスの影響を及ぼすことになる。そうした事態を未然に防ぐためにもボランティア研修を継続的に行うことが重要であると考えている。

ボランティアに登録する条件として、活動を開始する前に所定の研修を受けることを必須条件としている。登録後も、よりよいサービスを来館者に提供していくために、展示に係る知識や来館者とのコミュニケーション技術を身につけるための研修を年10回から15回程度実施してい





る。これまでに実施してきた研修の内容については、資料編に掲載している。

6. 活動実績

○平成23・24・25年度実績

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度 (平成 26 年 2 月現在まで)
年間延べ活動人数	5,143 人	5,398 人	4,792 人
1 日あたり	14.1 人	14.8 人	13.1 人

○団体対応件数実績

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度 (平成 26 年 2 月現在まで)
81 件	153 件	138 件

7. ボランティア募集実績

	募集時期	活動開始時期	登録人数
第 1 期	2005 年 5 月	2005 年 11 月	138 人
第 2 期	2006 年 5 月	2006 年 11 月	21 人
第 3 期	2007 年 5 月	2007 年 11 月	30 人
第 4 期	2008 年 5 月	2008 年 11 月	25 人
第 5 期	2010 年 12 月	2011 年 4 月	19 人
第 6 期	2012 年 12 月	2013 年 4 月	19 人



8. 寸劇ボランティア

(1) 導入の経緯

2005年4月より指定管理者による同年11月の博物館開館に向けての準備が始まった。ボランティアの導入についても検討していた頃、地域で活動している長崎県演劇協会会長で市民劇団「劇団ちゃんぼん」を主宰する本山善彦氏より、復元された奉行所で犯科帳にもとづいたお裁きの芝居をやってみてはどうかとの提案があった。本山氏から提出された上演の趣旨を抜粋する。

「これからの観光は、景色を見るだけ、建物を見るだけではなく、参加型、体験型の観光が主流になっていくでしょう。復元された長崎奉行所立山役所の中で、見る者があたかもタイムスリップしたかのように、市民役者が扮する奉行をはじめ役人達の仕事ぶりや歴史的イベントを再現した寸劇で、楽しく、わかりやすく、奉行所の果たした役割や機能を実感できる空間とする。」（「長崎奉行所情景展示に対する提案」より）

奉行所の復元は長崎歴史文化博物館の売りの一つであり、そのような場を活かした芝居という演出により建物の魅力を増大させることができると考え、実施に向けての具体的な検討をはじめた。

「劇団ちゃんぼん」の本山善彦氏と本山早苗氏に演技指導と脚本づくりを委託し、役者は「寸劇ボランティア」として一般に募集することとした。寸劇ボランティアとして31名（男性15名、女性16名）が登録し、活動を開始することになった。その後は随時募集する形を取っている。

寸劇で上演する演目については、当館収蔵の犯科帳（国指定重要文化財）に記された様々な事件から寸劇にふさわしいものを選び、本山氏が脚本を執筆している。一般公開の前に当館職員が芝居を内覧し、脚本の内容や演出について、史実と違ってないか、表現は適切かなど確認するようにしている。

寸劇は復元された奉行所の御白洲で土日祝日に上演している。

2005年8月	寸劇ボランティア募集開始
2005年9月24日	オリエンテーション（活動内容、趣旨等の説明）
2005年10月1日	稽古開始
2005年11月3日	博物館開館「伊藤小左衛門事件」初演

(2) 寸劇ボランティア登録者数

	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度
女性	16名	21名	18名	10名	10名	24名	10名	8名	7名
男性	15名	20名	14名	11名	11名	1名	7名	7名	8名
全体	31名	41名	32名	21名	21名	25名	17名	15名	15名

(3) 上演時間・観覧者数

○上演時間

- ・ 2005年度11月～2007年度9月 (1日6回公演)
①10:00 ②11:00 ③12:00 ④14:00 ⑤15:00 ⑥16:00
- ・ 2007年度10月～2013年度3月 (1日5回公演)
①11:00 ②12:00 ③14:00 ④15:00 ⑤16:00
- ・ 2014年1月31日～2月14日 (ランタンフェスティバル期間中) の平日 (1日4回公演)
①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00

○観覧者数

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度 (平成 26 年 2 月現在まで)
4 月	1,605 人	1,446 人	1,060 人
5 月	2,610 人	1,701 人	1,658 人
6 月	1,691 人	1,541 人	1,661 人
7 月	2,066 人	1,644 人	1,191 人
8 月	1,408 人	1,725 人	1,731 人
9 月	1,905 人	2,104 人	2,137 人
10 月	2,462 人	2,092 人	1,312 人
11 月	1,415 人	2,239 人	1,437 人
12 月	899 人	1,066 人	550 人
1 月	1,815 人	1,502 人	1,214 人
2 月	1,470 人	2,038 人	2,177 人
3 月	1,503 人	1,708 人	—
合計	20,849 人	20,806 人	16,128 人

(4) 上演演目実績

1. 伊藤小佐衛門事件 …………… 平成17年11月 3日 — 平成18年 3月31日
2. 漂流民マクドナルド事件 …… 平成18年 4月 1日 — 平成18年 9月30日
3. 鬼を泣かせた娘 …………… 平成18年10月 1日 — 平成19年 3月31日
4. 嫁盗み …………… 平成19年 4月 1日 — 平成19年 9月30日
5. くんち奉納踊り訴え ……… 平成19年10月 1日 — 平成20年 3月31日
6. ペーロン競漕喧嘩事件 …… 平成20年 4月 1日 — 平成20年 9月30日
7. 偽キリシタン事件 …………… 平成23年 4月 1日 — 平成23年 9月30日
8. はた揚げ騒動 …………… 平成21年 4月 1日 — 平成21年 9月30日
9. くんち奉納踊り訴え ……… 平成21年10月 1日 — 平成21年12月31日
10. 三人の龍馬がゆく …………… 平成22年 1月 1日 — 平成23年 3月31日
11. 忠臣蔵 桜の別れ …………… 平成23年 4月 1日 — 平成23年 9月30日
12. 帰ってきたジョン万次郎 …… 平成23年10月 1日 — 平成24年 3月31日
13. シーボルト事件 …………… 平成24年 4月 1日 — 平成24年 9月30日
14. 偽占い師事件 …………… 平成24年10月 1日 — 平成25年 3月31日
15. 唐人屋敷の抜け穴掘り事件 平成25年 4月 1日 — 平成25年 9月30日



- 16. 天領長崎放火事件 …………… 平成25年10月 1日 — 平成26年 1月30日
- 17. シーボルト事件 …………… 平成26年 1月31日 — 平成26年 6月30日

紙面編集・辻秀敏

(第3種郵便物認可)

長 崎 新 聞

ボランティア劇団「長崎奉行所芝居組」 20分の御白洲に魂込め

歴史文化 大堀館長 ねぎらう

寸劇は、05年11月の開館初日以来、土日祝日と正月三が日に一日5回上演。江戸時代の「犯科帳」が記す長崎で起きた事件を20分間のコミカルな芝居で見せて人気を集めている。同館によると国内の博物館では唯一の取り組みという。

同日は、9人の団員が16作目の演目「天領長崎放火事件」を上演。約40人の観衆から盛んな拍手を浴びた。大堀館長が感謝の言葉を述べた後、座長の本山善彦さん(72)と、脚本も担当している早苗さん(66)に、「名譽状」として活躍し、「昨年引退した元団員の

寸劇通算5000回達成

長崎歴史文化博物館(長崎市立山十目)で、ボランティア劇団「長崎奉行所芝居組」が上演している「奉行御白洲(おしろ)」が41日、上演通算50回を達成した。



かつての仲間から花束を手渡される本山善彦さん(左から2人目)と妻早苗さん

2013年11月25日 掲載
長崎新聞

内野節理さん(70)が花束を手渡した。06年に脳梗塞で倒れながら半年で復帰した善彦さんは「神経も体力も使う真剣勝負。ここまでやれるとは思わなかった」。早苗さんは「面白かったと言われるために努力してきた」と笑顔で振り返った。(松尾潤)

笑い、涙「お裁き」5000回

ひと模様

善彦さんは「忙しなぶりしていたと振り返る。メンバが慣れ、ようやく軌道に乗りかけた2年目の06年9月、最大の危機が訪れる。善彦さんが脳梗塞で倒れた。

長崎奉行所芝居組座長・副座長
本山 善彦さん(72)
早苗さん(66)



早苗さんが20代のとき知り合い、約1年前に再会し結婚。「芝居に関してはいい言葉を書いた」と話す本山座長

脳梗塞の危機乗り越え

意識に、まるで「芝居をやめるな」というような合図を左手で早苗さんに送った。驚いた早苗さんが上演を予定していた新作の台本を見せると、言葉にならない声でせりふを読み始めた。善彦さんの様子を伝え聞いたメンバは「座長が戻るまで頑張る」と奮起。全員が多層や裏方にかいがいしく動き回った。早苗さんは「一気に結果が固まった」と語る。善彦さんは懸命のリハビリを続け、半年後には医師が「数百人に一人と驚く奇跡的な回復を見せた。以前と同じ奉行役で舞台復帰を果たし20分の芝居を見事演じきった。舞台裏では、早苗さんが止めどなく感動の涙を流していた。「ようやく続いたよ」としみじみ話す夫婦。「演劇で故郷を盛り上げた」との志がロングランを支えている。雨の日も風の日も、観客がいる限り寸劇は続、「これにて一件落着き！」。奉行が締める観客が「お約束」の掛け声を飛ばす。「いよいよ、名奉行！」(松尾潤)

2014年1月12日 掲載
長崎新聞

3. ボランティア活動に関するアンケート調査結果

現在博物館のボランティアとして登録している115人を対象にボランティア活動に関するアンケート調査を行った。57人（回収率50%）より得られた調査の結果を報告する。

●調査の目的

- (1) 現在の当館でのボランティア活動に対して、どのくらい満足しているか、また満足していないかを明らかにする。
- (2) 当館でのボランティア活動を通して、どのような点で満足しているのか、またあまり満足していない点は何かを明らかにする。
- (3) 当館のボランティア活動に参加しようと思った動機を明らかにする。

●調査期間

2014年2月15日～2月23日

●調査方法

自記式アンケート

●サンプル数・回収率

サンプル数 57件 回収率 50%

調査結果の概要

回答者のプロフィールは60代と70代が9割を占め、ボランティア全体の年齢構成とほぼ一致している。

現在のボランティア活動についてどのように感じているかを聞いたところ、「長崎の歴史や文化について学習が深められた」「長崎に対する愛情がより深まった」という意見が最も多く、長崎に関する学習が深められたことによって愛着が深まるようになったことがわかる。また、「博物館の活動や仕事に興味関心を持つようになった」という意見も同じように多く見られた。ボランティアとして初めて博物館に係わるようになって、博物館に対する理解が深められたことがわかる。

一方、ボランティア活動を通して経験できるボランティア同士の交流と職員との交流については、満足度はあまり高くなかった。特に、職員との交流について「交流が深まった」と感じている人が少なく、「あまりそう思わない」「まったく思わない」と答えている人が半数以上を占めていることは、大きな問題として受け止めなければならない。

ボランティア活動に対する総合評価については、「非常に満足」「やや満足」と答えている人が44%を占めているのに対し、ほぼ同じ割合の42%の人が「ふつう」、7%が「やや不満」と答えている。「ふつう」と答えた人の中には、自分自身の勉強不足のためにお客様に満足のいく説明ができていない、あるいは体調不良により活動が十分にできていないなど、自らの問題を理由にしている人もいるが、好きだからこそ続けられる本来自主的、主体的であるはずのボランティア活動において、この数字が示す満足度の低さは注目すべき点である。

当館でボランティアを始めようと思った動機については、「長崎の歴史・

文化に興味があるから」という回答が全体の84%を占め最も多かった。ボランティア活動を通して感じたことのなかで、長崎の歴史や文化について学習が深められたという意見が最も多かったこととも呼応している。その次に多かったのが「観光客や子どもたちに長崎の歴史・文化について伝えたいから」という回答（58%）で、県内・県外から来られるお客様に展示の内容を説明する活動にやりがいを感じている人が多いことがわかる。

今回のアンケート調査を通して、ボランティアが期待していることと現実の活動状況や活動環境とのギャップが少なからずあることが明らかになった。ボランティア活動に対する満足度をもっと上げるには、このギャップを埋める努力が必要である。特に、博物館の職員の態度や対応が直接ボランティアのモチベーションや志気に係わってくることを真摯に受け止めなくてはならない。

調査結果

●回答者のプロフィール

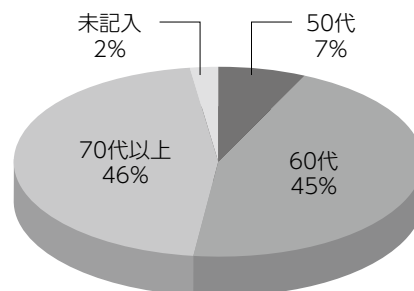
【性別・年代】

単位：人

	全体	50代	60代	70代以上	未記入
女性	26	2	13	11	
男性	16	1	4	11	
未記入	15	1	9	4	1
全体	57	4	26	26	1

n=57

	全体	50代	60代	70代以上	未記入
女性	46%	4%	23%	19%	
男性	28%	2%	7%	19%	
未記入	26%	2%	16%	7%	2%
全体	100%	7%	46%	46%	2%



【ボランティア登録年】

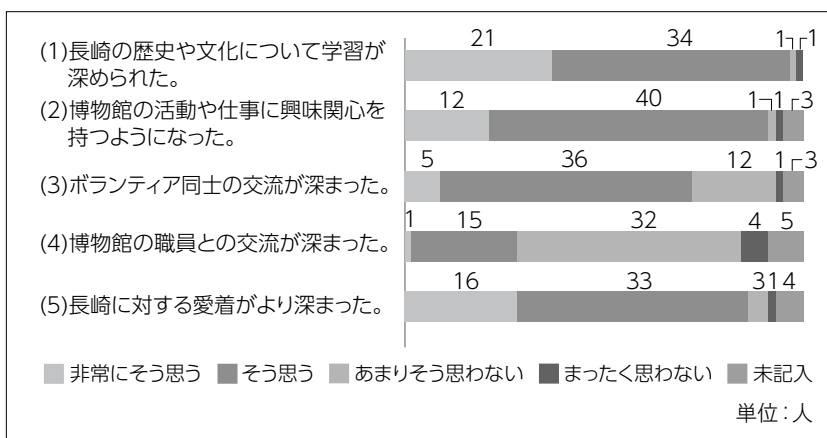
単位：人

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	未記入
全体	22	2	7	9	7	9	1

1. ボランティア活動についてどのように感じていますか。以下のそれぞれの質問について当てはまるものを一つ選んでください。

単位：人

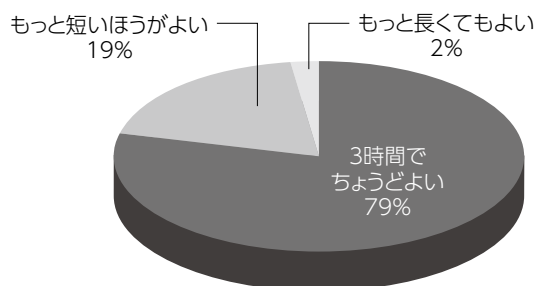
	非常に そう 思う	そう 思う	あまり そう 思わ ない	まったく 思わ ない	未記入	合計
(1) 長崎の歴史や文化について学習が深められた。	21	34	1	1		57
(2) 博物館の活動や仕事に興味関心を持つようになった。	12	40	1	1	3	57
(3) ボランティア同士の交流が深まった。	5	36	12	1	3	57
(4) 博物館の職員との交流が深まった。	1	15	32	4	5	57
(5) 長崎に対する愛着がより深まった。	16	33	3	1	4	57



2. ボランティアの活動時間についてお聞きします。

n=57

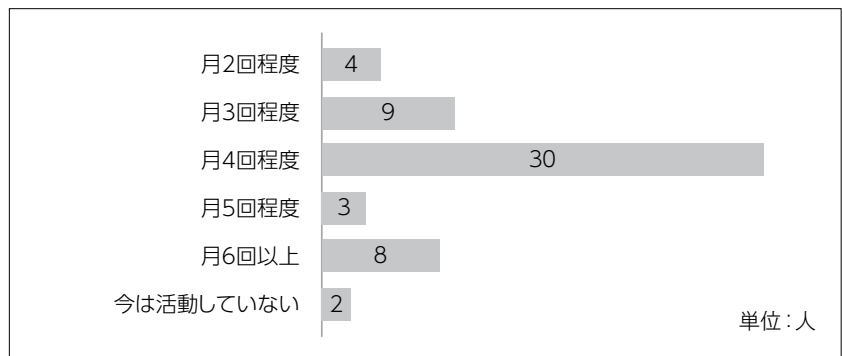
3時間でちょうどよい	45	79%
もっと短いほうがよい	11	19%
もっと長くてもよい	1	2%
	57	100%



3. あなたは博物館で月何回程度ボランティア活動をされていますか。

n=57

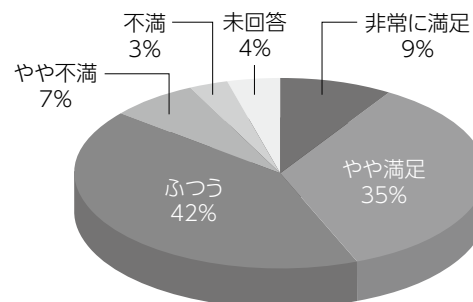
月2回程度	4	7%
月3回程度	9	16%
月4回程度	30	53%
月5回程度	3	5%
月6回以上	8	14%
今は活動していない	2	4%
未記入	1	2%
	57	100%



4. 現在の活動について、総合的にみて満足されていますか。

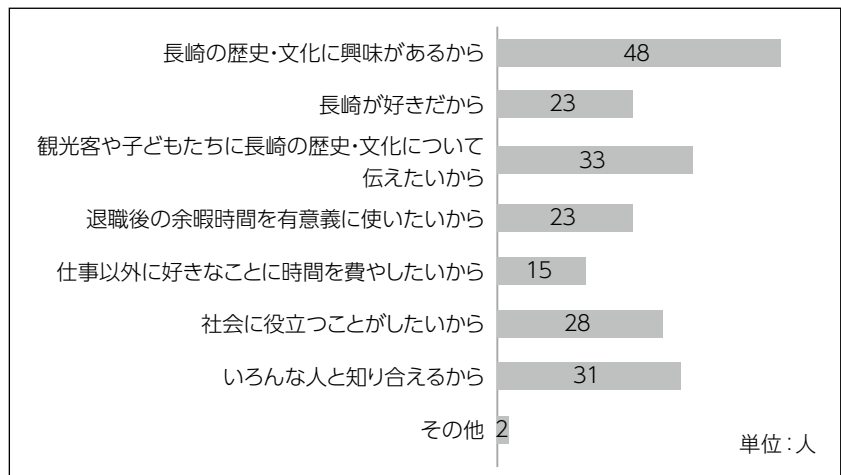
n=57

非常に満足	5	9%
やや満足	20	35%
ふつう	24	42%
やや不満	4	7%
不満	2	4%
未回答	2	4%
	57	100%



5. 博物館でボランティア活動をしたと思った動機は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。 n=57

長崎の歴史・文化に興味があるから	48	84%
長崎が好きだから	23	40%
観光客や子どもたちに長崎の歴史・文化について伝えたいから	33	58%
退職後の余暇時間を有意義に使いたいから	23	40%
仕事以外に好きなことに時間を費やしたいから	15	26%
社会に役立つことがしたいから	28	49%
いろんな人と知り合えるから	31	54%
その他	2	4%



6. 現在の活動について、総合的にみて満足されていますか。具体的な理由をお聞かせください。

【非常に満足】と回答した人の理由

研修を受講することでより長崎の歴史が学ばれる。県外の観光客の方々との出会いでその後個人的に文通や再会の機会があり、日本全国に知り合いが出来た。	1期	女	60代
---	----	---	-----

【やや満足】と回答した人の理由

活動時間が自由に選択できる。予定の行事が急に変更となっても、当日でも活動ができる(何時でも前もって予告しなくても活動が可能)	1期	女	60代
長崎の歴史や文化についての理解が深まり、他のボランティアの人々とも仲良くなった	1期	男	60代
お客様との出会いや自己の健康維持	3期		70代以上
お客様を案内して、非常に喜ばれるととても嬉しい。お客様が少ない時は手持ちぶさた。企画展では特に案内する必要が少ないのであまりやりがいを感じられない。	6期	女	50代
土・日には活動できない環境にありますが、それでも参加出来る状態であるのがとても感謝しています。	5期		
入館者の方々からお礼の言葉を掛けられた時等			70代以上

都合のいい日に都合のいい時間に参加できるのが良い。でも企画展にはいる事が多いが、監視の人とダブるようでボランティアの仕事は何をしたらいいかわからない。	1期	女	60代
新しい情報知識が吸収できる	6期	男	70代以上
知識が増えたこと。	6期	女	60代

【ふつう】と回答した人の理由

もっと勉強したい。スキルアップ研修に参加したいが時間の都合で参加できないこと。	4期		50代
まだまだ学ばべき事が多い。	6期		60代
自身の勉強不足を感じています	5期	女	60代
活動の内容についてまだ勉強が不足している	6期	女	70代以上
0からの出発で学習している事がなかなか自分のものにならず、展示案内という役目を十分に果たせないでいる。	6期	女	70代以上
ガイド制度を復活して、より具体的に活動してはどうですか。そうすることが明日へのお客様をよぶことが出来る	1期	男	70代以上
お客様が少ないのが問題です。長崎の歴史やいろんな事をお話し・説明したくてもお客様がいらっしやらない。説明案内する事がなければ記憶している事も忘れてしまいそうです。	1期	女	70代以上
自分自身の体調や、身内が体調悪くて活動が少なかった事が悲しく思っています。これからあたたかくなれば活動できると思っていますので、よろしく願いいたします。	5期	女	60代
今は時間的に3時間の空き時間がないと参加することが出来ない。時には2時間参加が許されても良いと思う。	4期	女	70代以上

【やや不満】と回答した人の理由

来館者数の増加の努力に対して、館の前向きな（スタッフ共）行動が不足している。又、企画展もしかり。先行きの不安を感じる！	3期	女	70代以上
①その日時によりボランティア参加者数にかたよがりがあり、参加した時に人数が多いと、特に参加する必要はないのではと思う。時間帯の必要人数を出していただければと考える。②当初から参加されている方には必要ないかもしれないが、例会的なものがあってもよいのではと思う。	6期		60代
3時間続けて立っていたら途中、疲労感生じて集中できない。途中休憩もいいが、1.5～2時間だったら家事と両立し易い。	1期	女	70代以上

ボランティア活動に関するアンケート

日頃は長崎歴史文化博物館の運営にご尽力いただき感謝申し上げます。現在の活動に対するみなさまのご意見、ご要望をお聞きし、今後のボランティア活動のより一層の発展に役立てたいと考えております。アンケートへのご協力をお願いいたします。2月23日(日)までに返信いただきますようお願いいたします。

1. ボランティア活動についてどのように感じていますか。以下のそれぞれの質問について当てはまるものを一つ選んでください。

	非常にそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
(1)長崎の歴史や文化について学習が深められた。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)博物館の活動や仕事に興味関心を持つようになった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3)ボランティア同士の交流が深まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)博物館の職員との交流が深まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5)長崎に対する愛着がより深まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2. ボランティアの活動時間についてお聞きします。

- (1)3時間でちょうどよい (2)もっと短いほうがよい (3)もっと長くてもよい

3. あなたは博物館で月何回程度ボランティア活動をされていますか。

- (1)月2回程度 (2)月3回程度 (3)月4回程度 (4)月5回程度 (5)月6回以上
(6)今は活動していない

4. 現在の活動について、総合的にみて満足されていますか。

- 非常に満足 やや満足 ふつう やや不満 不満

具体的な理由をお聞かせください。

5. 博物館でボランティア活動をしたいと思った動機は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- (1)長崎の歴史・文化に興味があるから
(2)長崎が好きだから
(3)観光客や子どもたちに長崎の歴史・文化について伝えたいから
(4)退職後の余暇時間を有意義に使いたいから
(5)仕事以外に好きなことに時間を費やしたいから
(6)社会に役立つことがしたいから
(7)いろんな人と知り合えるから
(8)その他 _____

ボランティア登録年 : 1期 2期 3期 4期 5期 6期

性別・年齢 : 男 女 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

ご協力ありがとうございました。 長崎歴史文化博物館

4. ボランティアの声

ボランティア活動に参加して

展示案内ボランティア
1期 荒濱 茂

1、参加の動機

平成16年亡妻の三回忌法要を済ませたものの、未だ半虚脱状態から脱しきれず、ともすれば佛前で「正信偈」を唱える日が多かった。

それより先立って昭和57年定年を9年残し51歳で公職を退職し、各地の「城郭遺構」の調査に集中したが、いわばこれまでが第1の人生である。

それが3年程続き某医療機関に乞われ再就職。休日の合い間を見てそれまで実踏・渉猟を重ねた結果を上梓すべく準備を進め、13年つとめた医療機関を退職したのが67歳でこれまでが第2の人生と言えよう。

その後は家庭を顧みなかった贖罪を含め各地を実踏するたびに妻を同行する旅が続いていた矢先、突然妻は病魔に襲われ、結局彼岸の彼方に旅立ち、冒頭の虚脱状態が続いていたのであった。

そこに平成17年開館にむけた「ボランティア募集と研修」の記事を目にしたのである。そこでこれまで培ってきた「城郭史(趾)の繻きが役に立てば」と思い応募したのであった。

これまで第1第2の人生が夫々「人に奉仕を中心」とした内容だっただけに「ボランティアも奉仕の延長」と位置づけた訳で、いわば第3の人生を見出したようなものである。

2、活動の仕甲斐に思うこと

案内終了後「頭を下げ礼を述べる人」「両手で痛い程に握手を求める人」「名刺を求める人」と夫々感謝の表わし方は異なるものの、お客様からそのような反応を得られること程、活動の仕甲斐を感じるのである。

私は自宅に礼状を頂き返信を差し上げその一部の方とは現在に至るも年賀の交流が続いているが、まさに「ボランティア冥利」につきるのではなからうか。そのためには「文化的箱物」の活動であるが故に

- ・服装に心掛け室内では帽子等「被り物」は身につけないこと
- ・態度としてポケットなどに手を入れて案内行動は避けること
- ・言葉は「人を見て法を説け」の箴言の通りで折りにはエピソードを混え説明する余裕が欲しいものである

これらは経験則から感得した一部であるが、要は「仕甲斐のある反応」が戻ってくるよう個々の心掛けと研鑽につきるようである。

3、活動して良かったこと

ボランティア活動で良かったことは数多くあるが一部を例示して挙げれば、ボランティアは言うまでもなく、職員の方々、フロアスタッフの皆様も含めて性別・年齢の差を問わず数多くの友人を得たことであろう。まさに一

期一会の環境に身を置き、それらの友を得たことは第3の人生としては望外の幸せである。

次に小・中学の児童生徒と接触する機会があることは、自己研鑽の観点から「得難い教師」として応対に心掛けており、お礼の言葉や感想文などを寄せられた時など、文中に私が説明した内容を織込み、精一杯の感謝の気持ちを伝えようとしている気持ちが行間に読み取れるだけに、更に研鑽を教えてくれる教師的存在でありがたく感じているのが現状である。

4、抱負

いつしか活動を始めて8年の歳月が過ぎ、自身も傘寿を3歳過ぎる馬齢を重ねた今日。常に自戒を胸にして努めて自然体で、思いやりとおもてなしの活動を、体調・気力の続く限り続けたいと思うが、その幕引きの時期を誤らないように心掛けている昨今である。



ボランティア活動に参加して

展示案内ボランティア
5期 田崎 晶子

平成22年関東より戻り引っ越しの片付けも終わりほっとした頃、新聞紙面での博物館ボランティア研修生の募集が目に残りました。関東に住んでいた時、長崎出身の友人が「帰省すると最近完成した博物館に行くのが楽しみだ」と言っていた事を思い出しました。私も興味があり長崎の歴史を勉強したいと思い早速応募しました。

1月から7回の研修を経て、展示案内5期生として4月から活動を始めることになりました。最初はお客様と言葉を交わす切っ掛けが掴めずに展示室をうろうろしている毎日でした。そんな時先輩から指導して頂く機会がありました。案内されている先輩の後に付いて要領を学びました。

多くの方との出会いがありました。早朝来館された御夫婦は定年退職を機に三重県から車で九州1周の旅をされており、当日は市内観光の予定だったそうですが悪天候で急遽駐車場もあるので博物館に来たとの事でした。案内をしていくうちに長崎の歴史に関心をもたれ、共感され、熱心に見学されました。帰り際に「来て良かったです」と言って博物館を後にされました。お客様から感謝の言葉をいただいた時ボランティアをやった良かったと思いました。

修学旅行の時期になると沢山の中学生高校生が貸し切りバスで来館します。博物館に見学に来たからには、ひとつでも見てもらいたいと声を掛けますが、殆どの生徒は「時間がありません」と言って素通りしていきます。素通りする生徒を立ち止まってもらえるかが今後の課題です。

時には小学生を案内する機会がありますが子どもたちは私の目を見て話を聞いてくれます。子どもたちは長い時間集中は出来ませんので問いかけをして展示を見て考えてもらう様にしています。体験コーナーも充実していますので実際に見て触って体験してもらっています。

先輩ボランティアの様にまだまだ案内は出来ませんが少しでも興味を持ってもらえる対応が出来るようになりたいと思います。

企画展ボランティアにも参加して1年がたちますが、展示室内の監視や子どもたちに説明しています。間近で展示品を鑑賞できる喜びがあります。

ボランティア主催の研修旅行では史跡巡りをしていますが、いつもはお会い出来ない皆さんとの交流を深めると共に色々な歴史を学ぶ事が出来ます。

ボランティア活動して3年目になりますが博物館にはボランティア活動の場を提供して頂いたことを感謝しています。

我が国発祥の地の記念碑が点在する長崎の街、これからもボランティア活動を生涯学習の場として学び知識を深めていきたいと思っています。

長崎歴史文化博物館ボランティア一年生

展示案内ボランティア
6期 服巻 昭徳

私は長崎歴史文化博物館でのボランティア活動を始めて、今年の4月で2年目になります。現在52才ですが、今まで「ボランティア活動」という経験を一度もした事がなかった私が歴文のボランティアに応募したのは、私はNPO法人JICAのシニアボランティアで活動する事に憧れ、2年程前に資格が必要となる英検の準2級を受け合格したのを期に、同県内からですが長崎市の方へ引っ越して来ました。しかし「いや？まてよ？日本においてまずボランティア活動というものが出来ないようであれば、JICAに応募しても活動することが出来ないのでは？」と思ったのがきっかけです。

案の定、ボランティア研修は受けたものの、ボランティアデビューの初日、お客様に話しかける時凄く緊張し、説明しなければならないのに言葉がなかなか出ず、ただただ時間だけが過ぎて行ったのを覚えています。

それからです。まず私はお客様をはじめ、ボランティアの方々や館内で仕事をされている方々に積極的に私の方から「挨拶をして行こう」と決めました。お陰で先輩ボランティアの方から、手取り足取り案内の仕方を教わり、長崎の歴史に無知であった私に「色々な長崎の歴史に関する本を読むように」と薦められ、図書館へ通う事が増え、次第に長崎の歴史の魅力と奥深さに驚かされるようになりました。

また説明するにあたり、自分なりの手帳を作り、お客様から聞いた歴史の話などメモを取るように心がけています。更に、私自身の勉強の意味も含め、お客様に説明するにあたり、長崎の各名所を自分の足で時間をかけて見に行くのが楽しみになっています。

最近では、外国人のお客様にも積極的に話しかける事を目指しています。微力な英語力ではありますが、笑顔とジェスチャーを交えての説明で、帰られる際に「ありがとう・Thank You」などと言われると、嬉しい反面「もっと英語の勉強もしなくては…」と思っています。また先日、案内をしたインドネシアの方で北九州の大学で建築の勉強をされているという女性3名のお客様から、帰られる際に「一緒に写真に入って貰えますか」とお願いされた事もボランティアをされていて初めての事だったので、英語を勉強していて良かったと思いました。

JICAに行く事を念頭に始めたボランティア活動1年目も終わろうとしています。長崎の歴史の誘惑に引き込まれている私は「回り道も必要なのかな…」と思い、歴文のボランティア案内として2年目を迎えたいと望んでいます。これにあたり、まず初心に帰って「1年生」。来館されるお客様を案内する事にあたり、少しでも喜んで頂ける様に一步一步成長していきたいと思っています。

私のボランティア活動

展示案内ボランティア(外国語)
1期 吉沢 隆平

1. 活動状況

①ボランティアの1期生ですので、もう8年になります。現役時代は長期海外出張や海外勤務の経験等あり、会社勤めが終わったら、外国人相手のボランティアなどやりたい、と思っていました。ですから、この博物館での活動は楽しく、有難く思っております。

②現在、週1,2回程度外国人を案内しています。国別で見るとH24.4からの累計では、米国が最も多く、オーストラリア、英、仏の順となっています。珍しい所ではポーランドやスロベニアの方もおり、約30カ国の多岐に渡っています。お客が来られると“ご案内しましょうか”と声をかけ、時間をお聞きして、案内しています。

③案内に際しては、終わってお別れする時に“楽しかった”と言われる様、心がけています。その為、1,2工夫しています。1つはiPadで、写真を沢山ファイルし、お客様に随時見せています。例えば、福沢諭吉・伊藤博文の紙幣、インゲン豆、根付けやおでん等の画像で、特に福沢諭吉など、お札を見せると笑いを誘います。インゲン豆も隠元禅師の説明に使います。2つ目は携帯のタイマーです。セットすると残り時間がわかり便利です。

2. 事例

ボランティアの楽しさは何と言っても異文化の方と接触し、コミュニケーションができるということです。その中でも特に印象に残っている例をご紹介します。

①心残りのケース

アメリカの中年の女性で大学の先生でした。説明しましょうか、とお聞きすると、笑顔で“Thank you”と言われました。ところが案内すると段々足早に行かれ、漸くこれはお呼びでないな、と気づき途中でやめました。1時間程してから、「お礼を言わず、申し訳なかった」と丁寧な伝言が有りました。今でも、余計な事をしてご迷惑を掛けたのではと、心に残る一件です。

②びっくりしたケース

これも中年のアメリカのご婦人。長崎留学の写真の所で、伊藤博文や福沢諭吉の話をしていると、いきなり、違った所を指差して、この人、女性ではないかと言われました。よく見ると西園寺公望公のサムライ姿です。いや、この方は、後に総理大臣になられた方で男性ですよ、と言いましたが、納得されませんでした。後で博物館のパソコンで調べると、西園寺公は“お寺さん”と呼ばれ、花街の女性には有名だった方とか。女性の目は、洋の東西を問わず鋭いものとびっくりしました。

③楽しかったケース

ドイツから来られたご夫婦、ロシア出身と聞き、工芸室の青貝細工<西洋の港を描いた風炉先屏風>を見せました。かねて、その港はレニングラードと聞いており、確かめようと思いました。お聞きすると、やはりそう、彼はレニングラード生まれで、風景が似ているとの事でした。平戸焼きの根付の所では、ご主人が奥様に解説をされていました。伊藤博文の説明をするとハルピンや白系ロシア人の話が出たり、ロシア人水兵らしき写真やブチャーチンの長崎来航時の絵などをお見せすると、とても喜んで写真に撮っていました。楽しいガイドでした。

3. 結び

この博物館に来られる外国人は、大学や高校の先生、企業の管理職やエンジニア、コンサルタント、牧師、そして悠々自適のご夫婦等で、総じて知的好奇心の強い、お国では影響力のある人達です。こうした人々に、博物館で楽しんで貰い、日本に良い印象を持って帰って頂きたい、そして、少しでも、日本ファンが増えたら有難い、などと思っています。

ボランティア一期生として

業務支援ボランティア
1期 湯藤 康子

10回の講習をクリアして私がボランティアになったのは、平成17年秋、長崎歴史文化博物館のオープンと同時でした。1期生です。とは言っても、私は特に歴史を学んだという事もない素人でしたが、海外交流の拠点として輝いていた頃の長崎の歴史・文化をいっぱい詰め込んだこの博物館に身を置く事は、長崎で生まれ育った私にとって大変に魅力的な事でした。

当初は「展示案内」の係として、主に奉行所でお客様のお相手をしていたのですが、平成19年2月、甲状腺の腫瘍の切除を受け、以来長いおしゃべりが出来にくくなりました。ちょうどその頃、業務支援のボランティアが誕生していましたので、私もその仲間に入れて頂き、現在に至っています。

業務支援のボランティアは、館の運営がスムーズに進みお客様に満足して頂く為の、いわば縁の下の力持ち。現在24人が登録しています。

全員が一斉に取り組むのは、3階で開かれる様々な企画展の準備です。企画展の際は、事前に全国各地の博物館や美術館、報道機関、県内の小中学校から町内の自治会まで、およそ2千通の案内を送りますが、私たちは2か月位前から準備を始めます。チラシを数え、ポスターや各種のお知らせなどと一緒に袋詰めにして封をします。学校へは、子供の数だけチラシを入れますので、全体としてかなりの重量になります。私たちは、それぞれの持ち時間に博物館に来て、お互いに申し送りをしながら担当職員の指示に従って作業を進めます。無事に送り作業が終れば、又それぞれの業務に戻るのです。

個人個人としては、イベントや講演会の受付、全国各地から送られてくる資料の整理、水曜日には、常設展の町屋での折り紙作り、ボランティア会報「風説書」の編集などの受け持ちがあります。その中での私の担当は新聞記事切り抜きのコピーです。

主に、長崎に関係のある新聞記事のバックアップコピーを作るのです。このファイルは長崎歴史文化博物館の開館以来、2月末現在で165冊になりました。4人のボランティアで分担していますが、特に「くんち」「博物館」「世界遺産」更には、当博物館の企画展を取り上げた記事、「龍馬」「孫文と梅屋庄吉」などは、更に別ファイルを作って保存しています。これらの新聞記事は、名刺より小さい物から全面を使った大きな物まで様々で、コピー用紙をつなぎ合わせる事もしばしば。絵や写真がまん中で切れないよう、工夫してつなぐのも楽しみの一つです。うまく出来た時は、1人で思わずガッツポーズをしてみたり…。私が一番好きなのは、日本経済新聞が長く続けている、文化面の「美の美」というシリーズ。古今東西の絵画が解説と共に楽しめます。作業中である事をついつい忘れ、じっくり眺め、かつ読みふけてしまう事もしばしばです。（困ったボランティアですね）



さて、平成17年秋、同時にスタートした長崎歴史文化博物館と、私のボランティアとしての生活。どちらもこの秋10年目という節目を迎えます。博物館は、多くの人々の努力で内外のお客様に愛され続け、かつ歴史・文化の保存・展示に加えて、若い人たちの教育の面にも力を入れつつ、大きくなって行く事でしょう。

一方私は…と言えば、すでに傘寿を迎えて体力も気力もそして頭の中も、いささか心もとなくなって来ました。資料のファイルは近い将来デジタル処理される事になるのですが、それ迄はもう少しがんばってボランティアを続けさせて頂き、このすばらしい環境の中に身を置いていたいものだと思っております。



7年目のボランティア通信～思いも新たに

業務支援ボランティア
2期 稲田 香苗

「長崎の歴史について、教科書に出てくる程度のことしか知らずに過ごしてきました。3年ほど前に学ぶ機会を得て、ちょっと知るようになると、とてもおもしろく、もっと長崎について知りたいと思うようになりました。

ちょうどその頃、長崎歴史文化博物館のボランティアのことを知り、勉強ができるかもという甘い考えでスタートしました。2年前のことです。5月から10月までの研修を受けて、私たち2期生が入った時『ボランティア通信』発行にあたって、メンバー募集があり、経験があったわけではないのですが、参加してみました。

侃侃諤々の『ボランティア通信』作りが始まりました。第1号を出すまでが、長く熱い日々でしたが、平成19年4月、ついに創刊準備号、続いて7月に創刊号発行となりました。

現在は、年4回発行しています。この10月でもう6号となりました。企画の話し合いから、取材、原稿集め、写真撮り、原稿書き、パソコン入力、そして編集作業と、3ヶ月に1回、追われるような忙しさを味わっています。大変ですが、出来上がりを手に取ると嬉しくなり、頭のために少しはなったかなあと肯定的に考えています。

ボランティア通信の名前は、『風説書』です。『風説書』とは皆さんご存知のように、鎖国時代における海外知識の重要な源泉のひとつであり、奉行所を通じ、幕府に提出した海外情報です。オランダ語でニュース・情報のことを『nieuws・novos』といい、それを『風説書』と訳したとのことで、まさしく情報発信のボランティア通信の名称としてふさわしいのではと考えました。

なお、タイトルの文字は当博物館に収蔵してあります風説書のうち『天保十一年の風説書』をそのままタイトル文字としました。

今、メンバーは3人ですが、少数精鋭(?)で細く長く、元気に頑張りたいと思っています。」(『長崎れきぶんNEWS』第9号)

これはスタートしてから2年目の文章。それからさらに5年が経ちました。

この4月で『風説書』も第28号になります。年4回発行するには、かなりのエネルギーを使うので、よく続いているなあと、自分でもびっくりしています。けれども、その間にはスランプも何回もありました。特に、第27号を発行した後、「皆さん読んでくださってるかな」、「楽しみに待ってくださっているかな」などと思い始め、何か1人で空回りしているようで、力が抜けていきました。

転居して博物館から遠くなったこと、年を取ったこと、マンネリ化の不安があること、家庭的にも多忙になってきたこと—今までみたいに自分が楽しんで続けられるか—不安になってきたのです。それでも、実際には、やめる決心もつきませんでした。

いま、第28号に向けて取り組んでいます。やはり、編集作業は大変だけれども、評価もないけれども、体と頭が続く限り、続けたいと思います。

平成19年の創刊準備号に「皆様方の日頃の活動を紹介し、知識を深め、情報の交換、親睦をはかる目的で『ボランティア通信』を創刊することとなりました。」とあります。

創刊時の思いを再確認し、新風を取り込みながら、ひとつひとつ取り組んでいけたらと願っています。



ボランティア活動について考えること

保存環境ボランティア
5期 吉村 結子



2011年、保存環境ボランティアの募集がありました。博物館では、数多くの文化財が収蔵されており、それらを未来へ引き継いでいくために、県・市民の財産である文化財をみんなで守り、次の世代へ伝えていくため、活動の一部をボランティアの仲間と共に行っていきたいということでした。

私自身、文化財の保存・保管には興味があったので、私の力で何かお役に立つことがあるのか不安な気持ではありましたが、参加することを決めました。

講習会を受け、私たちボランティアの役割は、文化財を守るために重要な「予防」であることがわかりました。

『文化財を守るための活動…総合的有害生物管理、薬剤に頼るのではなく資料の保存環境を適切に管理することによって、虫やカビ等による被害を予防していく』そのために、環境の把握・観察・清掃を行っていくことであると認識しました。

保存環境グループ全員による活動は、月1回の休館日を利用して行っています。メンバー各自それぞれの視点で清掃・監視も、時には虫や虫の死骸を発見したこともありました。害虫侵入の原因を全員で考え、自分達で何ができるか、どうしたらよいかを話しあいます。

先人達が膨大な時間と費用をかけ、収集してこられた貴重な文化財を守っていくという大事な役目。その一端を担わせてもらっていること、物を大切に作る心、個人1人の力では小さなことも、仲間と共に力をあわせて取り組んでいることに、とても幸せを感じています。

展示室内の目視点チェック等も続け、保存環境に少しでも役立つように、これからも活動を続けていきたいと思っています。

私にとってボランティア活動を行なうことは、人のためではなく私自身のためと考えています。

私を育ててくれた社会に、私ができることはないのか？と考えた時、今の私では、知識・意識共にお役に立てない。学び・知識を得ていかななくてはならないとの思いで、少しずつではありますが、講座等に参加し、学んでおります。まだまだ未熟ではありますがこれからも諸先輩方のご教示を受けながら学んで、私自身成長していけたらと思います。成長することによって、人様のお役に立てる機会も少しずつ増えていくのではないかと考えています。

長崎は歴史あふれる町です。当博物館や、長崎を訪問してくださる方々に、長崎の魅力・歴史をお伝えし、2度3度と訪問して頂ける様、長崎の歴史・文化財をもっと学びよりよいアドバイス等できる様に、己を磨いていきたいと思っています。

ボランティア活動を始めて

寸劇ボランティア
3期 小林 晃

最近、色々な方面からボランティア活動と云う言葉を良く耳にします。それぞれの得意の分野で生かして居る人、自分自身勉強しながら頑張っている人、様々の様です。私の場合、展示ボランティアと二役でお世話になって居ます。今回は的を寸劇に絞って書いてみたいと思います。

元々演劇は少年時代から好きでした。私の故郷は、芝居では有名な「国定忠治」の出生地でしたから。昔は年に1度、村の若い衆が村芝居をして、それ成りにスターも居たものでした。小学生の頃から、勉強もしないで台本を書いて学校帰りに仲間達と演じていました。学芸会では、主役でなかったと云い先生を困らせた事も良く覚えてます。

しかしながらそんな記憶はすでに遠く行って、定年まであと2年と話は一気に飛びます。「役者募集！素人可！」情報が有りました。物は試しと直ぐ応募しました。かなりの人数の方が楽屋に居られました。

御存じの通り演目は全て時代物です。1番苦労したのが、羽二重（はぶたえ）と云って、ちょんまげの下に月代（さかやき・額髪を頭の中央にかけて半月状に剃り落す）の代わりに巻き付ける絹布でした。気合を入れて巻くのですが、どうしても皺がついてしまうのです。家に持ち帰り何日も練習しました。後で座長から、羽二重がまともに巻ければ一人前と教えられました。

最近イメージトレーニングと良く聞きますが、私達も台本を読みながら頭の中に、どういう状況なのか何通りものイメージをします。ある御高名な能役者の方が練習百回舞台一回と云われてました。正にその通りだと思います。私達位の年齢に成りますと、今まで生きて来た経験から有る程度の出来事は予測出来るものです。それ故、若い時と違ってドキドキ感がなくなっています。そんな意味で見知らぬ人達の前で演ずる事はメチャドキの連続です。新しい演目初日1番目等は何回もトイレに行きます。脇の下は汗でビッショリに成ります。これ本当の事なのです。あの天下の美空ひばりさんでも、初日は足はガクガク喉はカラカラだったと云われてました。そんな過程を経て、お客様への反応も手応えを感じた時は爽快感を感じます。

そして思うのです。お客様が私達へのボランティアではないだろうか。芝居のある日は合間に展示の説明もして居ります。熱心に聞いて下さる方や、そうでない方、反応はさまざまです。ただ一生懸命話をすれば応えて頂けると思います。いつも思う事、あの人と話をすれば元気に成る、あの人と話をすれば楽しく成る。少しでもあの人に近づける様に精進したいものです。



5. 【寄稿】 ボランティアと共に進化する博物館を目指して

別府大学大学院博士前期課程

一瀬 勇士

(元長崎歴史文化博物館研究員 ボランティア担当)

1. はじめに

近年、多くの博物館・美術館でボランティアを導入する施設は、増加傾向にある¹⁾。少子高齢社会が進展する中で、市民の生涯学習の受け皿として博物館が果たす役割も拡大しつつある。こうしたボランティア導入²⁾によって博物館が市民と協働しながら成長する有機体であると同時に「地域に開かれた博物館像」³⁾をその設立理念に掲げる施設も少なくない。

しかし、依然として予算規模や人員の確保が厳しい地方の博物館ボランティアの現状は、安価な労働力や事務的な活動支援に留まっており、主体的かつ自立したボランティアの育成が喫緊の課題となっている。

そうした状況の中、ボランティアと円滑なコミュニケーションを図りながら、「地域連携」「博学連携」を教育普及担当者と共に先進的な取り組みを実践している博物館施設も各地でみられるようになった⁴⁾。特に2011年3月11日に起きた東日本大震災以降⁵⁾、改めて地域社会におけるボランティアの存在意義がクローズアップされており、博物館の運営においても欠かすことのできない存在として、ボランティアが果たす役割や支援する内容、活動範囲も年々、高度化・多様化の傾向にあるといえる。

本稿では、長崎歴史文化博物館（以下、「長崎歴文博」という。）のボランティア活動に約6年間携わってきた筆者の経験談を交えつつ、今後の博物館ボランティアのあるべき姿を些少なから述べていきたい。

2. 寸劇ボランティアとの出会い

学生時代、初めて長崎歴文博を訪れた際に、最も印象に残った展示は、復元された長崎奉行所お白洲で、土日祝日に開催されている寸劇公演であった。長崎歴文博には、江戸時代の裁判記録である犯科帳を所蔵しており、この犯科帳を基にして寸劇仕立てで来館者に紹介するという展示手法を採用している。

従来の博物館にはない展示手法の実現において重要な要素となるのが、演じる人＝寸劇ボランティア（劇団ちゃんぽん）のホスピタリティサービスである。モノ中心の博物館展示において、ヒトが展示主体となって、来館者に犯科帳に記された時代背景や関わった人々の思いをわかりやすく伝えるという画期的な試みは、長崎歴文博における展示の目玉となっている。何よりも復元された長崎奉行所という環境が、より当時の臨場感を作り出し、寸劇ボランティアの熱い思いが融合して成立し得る展示手法といえる。時には「笑あり」、「涙あり」といった人情豊かな寸劇も2013年11月24日で通算回数が5,000回を突破し、来館者参加型の展示スタイルとして、多くの来館者に親しまれている。

半年に一回の間隔で演目替えを行っているが、公開に先立って事前の台本確認や博物館職員、スタッフ、ボランティアが参加しての寸劇内覧会では、全体の流れや仕上がり具合、セリフの言い回しなど来館者にわかりやすく伝えるための意見交換の場ともなっている。公開披露したばかりの頃と数か月経った後では、基本的なストーリーは変わらないものの、寸劇ボランティアのアレンジや工夫もあり、また一味違った寸劇を見ることができる。

長崎歴史文化博物館で活動するボランティアの中でも、とりわけ寸劇ボランティアとの関わりは一番深く、楽屋でのコミュニケーションや着付け体験、節分での豆まきは、今でも印象深い思い出となっている。特に夏の暑い日差しの中や雪がちらつく冬の時期、お正月の三日でも休むことなく来館者のためにサービス提供してきた寸劇ボランティアには、頭が下がる思いで一杯である。

3. 多様化するボランティア活動の取組み

ボランティアの主な活動の舞台は、もちろん常設展示室である。展示室内における展示解説や定点解説、来館者とのコミュニケーションを通じて、長崎の歴史文化をわかりやすく効果的に来館者に伝える役割を担っている。長崎歴史文化博物館には、解説のスペシャリストともいえるべき、ガイドボランティア約20名が活動しており、学校対応や一般団体のガイド希望があった場合には、学芸員とともに解説活動を行っている。

ガイドボランティアの中には、自主的に自己研鑽し、教材を自前で作成する人やレファレンス室で調べ学習する人もおり、博物館施設がまさに「生涯学習の場」であるということを示す実践事例といえる。

展示案内ボランティア（ガイドボランティア含む）は、フロアスタッフ同様に博物館の最前線の現場で来館者に接する機会も多く、来館者からの展示評価や誤植の指摘などを一番早く受けることも少なくない。本来であれば、学芸員が担ってきた部分ではあるが、平日頃から多忙を極める学芸員に代わって、市民学芸員的存在として、より市民の視点に立った展示解説（自身の体験談や地元ならではのエピソード）を展開しているといえる。

しかし、博物館側が展示を通して本当に伝えたいこととボランティアが伝えたいことには、差異が少なからず発生する場合もある。ボランティアの主体性を尊重しながら、博物館の展示コンセプトを遂行するために、こうした乖離を限りなく少なくし、学芸員と展示案内ボランティアとのコミュニケーションを円滑化し、情報共有を図るための機会を設けた。具体的には、ボランティア向けのスキルアップ研修の実施や学校ボランティア⁶⁾への意見交換会など、双方が共に対話しながら成長できる機会を設けられた点については、両者にとって有意義なものであった。

九州国立博物館では、「モノ・人・環境に優しい」文化財の保存管理を目指したIPM（総合的有害生物管理）による環境ボランティアが活発に活動しており⁷⁾、「市民目線からの監視活動」を積極的に取り組

んでいる。長崎歴文博もこうした先進的な取り組みを受けて、資料・保存管理担当の職員とボランティアを中心に環境ボランティアを新たに発足させ、休館日を主な活動日として、IPMウォッチングや定期的な清掃活動を行っている。このような市民参加型のボランティア活動は、学芸員だけではなく、市民も文化財の保存・保護活動を支える人的資源であり、博物館の基本的理念である「文化財を守り後世に伝えていくこと」を具現化するものとして、今後も更なる活動の発展が期待されている。

博物館施設においてボランティアを導入する理由の多くが、展示解説や監視を主とするものであったといえる。長崎歴文博では、更にボランティア活動の充実とその活動範囲を広げる意味でも、常設展示室だけではなく企画展示室や商業施設、学校・老人福祉施設を対象としたアウトリーチなどにも活動範囲を拡大した。その結果、ボランティアによる支援協力によって、これまで以上に活性化したイベントもあった。

例えば、2006年度以降、博物館周辺自治体や市民との交流イベントとして開催してきた「長崎奉行所夏祭り」は、博物館職員が主体となって行ってきたものの、開催告知の遅れや出演・出店者のマンネリ化によって思うように進展することができなかった。しかし、2011年度より「夏祭り実行委員会」を立ち上げ、職員とボランティア、自治体代表者の三者を中心として出店協力やステージ演目への企画提案など多方面から支援を受けたことで、前年度を上回る参加者数と盛り上がりを実現することができた。このようにして、博物館がボランティアや市民と協働していくことで、地域連携には欠かせない存在として新たな付加価値を生み出す大きな原動力となっている⁸⁾。

4. ボランティア活動の課題

長崎歴文博ボランティアが抱えている問題としては、年度毎に開催されているボランティア総会においても度々議論されることがあった①ボランティア活動の継続性、②学校及び一般団体をガイドするボランティアの不足などがある。①については、現在第1期から第6期までのボランティア約100名が登録しているものの、実際に継続的に活動しているのは、3分の2以下であったように思う。つまり、登録または年度更新したものの活動実績が伴わないボランティアがいることを示している。また、②については、特に修学旅行の繁忙期にガイドを依頼できるボランティアが減少していることもあり、ガイドボランティアの育成が課題⁹⁾としてあげられる。

長崎歴文博ボランティアの今後更なる発展を目指す上でも、前述の課題はもちろんのこと、「指定管理者を導入する博物館として、どのようにボランティアと関わっていくか」を常に意識していくことが必要である。

昨今の博物館施設における指定管理者導入は、質の高い低廉なサービス提供を実現し、機能的かつ効率的な博物館運営に一定の効果をもたらしたといえる。

しかし市民の社会的ニーズの多様化・高度化が加速する中で、柔軟な

サービス提供を図っていくためには、人的資源の持続的な確保は急務であり、中長期的視点に立った明確なビジョンを策定していくことが必要不可欠である。この人的資源とは、博物館運営に欠かすことのできない学芸員やボランティア、市民であり、博物館運営を支援する社会的制度の充実と相互連携の構築が求められている。

指定管理者における学芸員の立場については、近年議論されてきているが、ボランティアに関しては、これまであまり議論されてこなかったように思う。学芸員同様にボランティアも社会的役割を十分に発揮できない問題を抱えており、ボランティアの受け入れには、慎重にならざるを得ない状況がある¹⁰⁾。そのため、博物館の基本的理念に沿ったボランティア運営におけるガイドラインや実情に則したマニュアルの策定に取り組んでいく必要がある。また、ボランティア導入後においても、博物館側が積極的に館の方針や情報をボランティアに伝えていく努力が必要であり、ある一定の説明責任を果たす義務があると思われる。

実際に学芸部門の職員とボランティアとのコミュニケーション不足は以前から通感しており、博物館運営に欠かせない対等なパートナーとして、その関係性を双方向的なものに発展させていく必要がある¹¹⁾。

5. おわりに

長崎歴史文化博物館のボランティアコーディネーターとして、約6年間勤務する傍ら様々な課題と向き合いながら取り組んできた。時にはボランティアとの意見の食い違いやコミュニケーション不足によって生じた不信感など教育普及グループの先輩職員とともに試行錯誤を重ねながら課題解決に取り組んできたといえる。そのような状況の中、多くのボランティアの方々との出会いがあったからこそ、自分自身の成長と経験に大いにつながっていることは確かである。企画展示やイベントなどで、困った私をいつも支えてくれたのは、職員の仲間とボランティアだった。そういう意味では、ボランティアと共に協働し、進化してきた博物館の姿があり、本当に充実した日々を過ごすことができたことに心から感謝している。

依然として、博物館におけるボランティアの社会的評価は定まっていない面も多いが、「地域に開かれた博物館」を達成していく上で、ボランティアの存在はとても心強いと思う。幸いにも長崎歴史文化博物館には、さるくボランティアの経験者、長崎県美術館と掛け持ちで社会貢献を果たしているボランティアをはじめ特異なスキルを持った人が数多く活動している。こうした人的資源やネットワークを有効に活用しながら、持続的で有機的なボランティア活動の実現に向けて、「地域市民による地域市民のための新しい博物館像」を築き上げて欲しいと切に願っている。

[謝辞]

末尾ではありますが、今回このような機会を与えて下さった大堀館長をはじめ長崎歴史文化博物館職員、ボランティアにこの場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

注・参考文献

- (1) 文部科学省の社会教育調査（博物館調査におけるボランティア活動の項目）による。なお、日本で初めてボランティアを導入した博物館施設とされるのは、日本民藝館と言われ、1936年に個人ボランティア導入を行っている。
- (2) 博物館におけるボランティア導入に関しては、日本博物館協会『博物館ボランティアの手引き - 新規導入または拡大充実を企画している博物館のために - 』,1995を参照。
- (3) 日本博物館協会は、市民とともに創る新時代の博物館像に向けた指針として、『「対話と連携」の博物館 - 理解への対話・行動への連携 - (2001) 』、『博物館の望ましい姿 (2003) 』の2つの報告書にまとめている。
- (4) 兵庫県立人と自然の博物館や滋賀県立琵琶湖博物館では、NPO法人格を取得したボランティア団体との連携や「フィールドレポーター」、「はしかけ制度」による博物館運営の活性化・地域連携の試みが行われている。
- (5) 東日本大震災の被災地支援として、ボランティアによる文化財レスキューの取組みが注目される。なお、日本におけるボランティア活動の転換点となったのは、1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災と言われ、ボランティアの存在意義が改めて見直されるきっかけとなった。
- (6) 1986年に、国立科学博物館が「教育ボランティア」制度をいち早く導入している。国立科学博物館における教育ボランティア制度導入の経緯については、諸澤正道編「開かれた博物館をめざして」財団法人科学博物館後援会,1991を参照。
- (7) 九州国立博物館のIPM活動の記録としては、「市民協同型IPM活動に関する研究会 - 発表記録と資料 - (研究代表者、本田光子)」に詳しく紹介されている。
- (8) 2012年度に開催した企画展「ドラえもんの科学みらい展」では、来館者誘導や展示解説などにおけるボランティア支援として、長崎総合科学大学や長崎大学工学部、高齢者生活支援研究会、日本機械学会九州支部シニア会の全面的な協力を受けた実績がある。特に企画展の開催や運営にあたっては、地元の研究会や組織との連携を積極的に行っている。
- (9) 薄井伯征『博物館ボランティアの養成・活動支援とミュージアムリテラシー - 秋田県大潟村における実践から - 』,日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要,第14号,2010
- (10) 大木真徳『博物館運営におけるボランティア受け入れの意義と課題』,日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要,第13号,2009
- (11) 前掲 (10)

ボランティア研修実績

平成 17 年度

	日 時	テーマ	講 師
説明会	7月2日 10:00～12:00	1. 博物館の概要 2. ボランティア活動について	野間誠二 (統括マネージャー) 藤泉 (長崎県政策調整局都市再整備推進課課長) 竹内有理 (教育研究グループリーダー)
第1回	7月9日 10:00～12:00	長崎の海外交流の歴史1 (原始・古代～中世)	大石一久 (長崎県政策調整局都市再整備推進課主事)
第2回	7月30日 10:00～12:00	長崎の海外交流の歴史2 (近世～近代)	原田博二 (長崎市立博物館館長)
第3回	8月6日 10:00～12:00	長崎奉行所と町の組織	本馬貞夫 (長崎県立長崎図書館副館長)
第4回	8月20日 10:00～12:00	収蔵品について	越中勇 (主任研究員)
第5回	9月3日 10:00～11:30 13:00～14:30 15:00～16:30	長崎奉行所立山役所	田中慎一 (長崎県政策調整局都市再整備推進課係長) 大石一久 (長崎県政策調整局都市再整備推進課主事) 安高啓明 (研究員)
第6回	9月10日 13:30～16:00	博物館におけるコミュニケーション、接客・接客	安富まり子 (JTB ビジネスサポート九州専任講師)
第7回	9月17日 10:00～12:00 13:30～15:30	体験コーナーについて	平岡隆二 (研究員)
第8回	10月15日 10:00～12:00 13:30～15:30	展示解説	越中勇 (主任研究員) 平岡隆二 (研究員) 安高啓明 (研究員) 松尾晋一 (研究員) 矢野香織 (研究員)
第9回	10月22日 10:00～12:00	避難訓練・緊急対応	長崎市中央消防署
第10回	10月29日 10:00～12:00	修了式、実地演習、写真撮影	大堀哲 (館長) 矢野香織 (研究員)

平成 18 年度

	日 時	テーマ	講 師
説明会	6月4日 10:00～11:00	博物館の概要 2. ボランティア活動について	大堀哲 (館長)
第1回	6月11日 10:00～11:00	奉行所展示について	原田博二 (当館研究所長)
第2回	6月25日 10:00～11:00	奉行所復元部分について 1	原田博二 (当館研究所長)
第3回	7月9日 10:00～11:00	奉行所復元部分について 2	原田博二 (当館研究所長)
第4回	7月16日 10:00～11:00	歴史文化展示について 1	原田博二 (当館研究所長)
第5回	8月20日 10:00～11:00	歴史文化展示について 2	原田博二 (当館研究所長)
第6回	8月26日 10:00～11:00	博物館ボランティアについて	竹内有理 (教育研究グループリーダー)
第7回	9月10日 10:00～11:00	歴史文化展示について 3	原田博二 (当館研究所長)
第8回	9月24日 10:00～11:00	体験コーナー 1	平岡隆二 (研究員) 出口亮太 (研究員)
第9回	10月8日 10:00～11:00	体験コーナー 2	平岡隆二 (研究員) 出口亮太 (研究員)
第10回	10月15日 10:00～11:00	実地研修、修了式	大堀哲 (館長) 野間誠二 (統括マネージャー) 矢野香織 (研究員)

ガイドボランティア養成研修（全5回）

	日 時	テーマ	講 師
第1回	11月6日 17:00～19:00	長崎歴史文化博物館の理念・運営方針について	大堀哲（館長）
第2回	11月22日 17:00～19:00	長崎奉行所ゾーンについて	安高啓明（研究員）
第3回	12月4日 17:00～19:00	歴史文化展示ゾーンについて	原田博二（当館研究所長）
第4回	12月11日 17:00～19:00	美術・工芸（収蔵品）について	越中勇（主任研究員）
第5回	12月18日 17:00～19:00	マナー研修、実地研修、修了式	大堀哲（館長） 繁村敏巳（広報・営業グループ）

スキルアップ研修

	テーマ
2月9日 17:00～19:00	黄檗文化と長崎
3月8日 17:00～19:00	出島

他博物館等視察・交流

- 11月 北海道開拓の村ボランティアとの見学・交流
- 2月 かごしま水族館ボランティアとの見学・交流
- 3月 壱岐郷土館でのボランティア協議会にボランティア2名参加
- 3月 筑紫野ボランティアバンクのボランティアとの見学・交流

平成19年度

	日時	テーマ	講 師
第1回	6月7日（木） 17:00～18:00	説明会 1. 博物館の概要 2. ボランティア活動について	大堀哲（館長） 野間誠二（統括マネージャー） 原田博二（研究所長）
第2回	6月23日（土） 17:00～18:00	奉行所展示について1	安高啓明（研究員）
第3回	7月14日（土） 17:00～18:00	奉行所展示について2	安高啓明（研究員）
第4回	7月28日（土） 17:00～18:00	歴史文化展示について1	深瀬公一郎（研究員）
第5回	8月4日（土） 17:00～18:00	歴史文化展示について2	平岡隆二（主任研究員）
第6回	8月25日（土） 17:00～18:00	美術・工芸展示について	植松有希（研究員）
第7回	9月1日（土） 17:00～18:00	収蔵品について	越中勇（主任研究員）
第8回	9月22日（土） 17:00～18:00	体験コーナーについて	平岡隆二（主任研究員） 一瀬勇士（研究員）
第9回	10月13日（土）	都合により中止	非常時の対応等 長崎市中央消防署職員
第10回	10月27日（土） 17:00～18:00	修了式、本登録の手続き	大堀哲（館長） 矢野香織（研究員）

スキルアップ研修

	テーマ
4月 17:00～19:00	唐通事の家系
5月 17:00～19:00	大航海時代
6月 17:00～19:00	阿蘭陀通詞
7月 17:00～19:00	長崎警備
8月 17:00～19:00	美術工芸1

9月 17:00～19:00	美術工芸 2
10月 17:00～19:00	シーボルトとそのコレクションについて
11月 17:00～19:00	石崎融思筆「唐蘭館絵巻」
12月 17:00～19:00	唐人屋敷と中国貿易
1月 17:00～19:00	川原慶賀筆「唐蘭館絵巻」
2月 17:00～19:00	長崎の町とその変遷
3月 17:00～19:00	長崎奉行所

他博物館等視察・交流

12月九州国立博物館ボランティアとの交流会

平成 20 年度

	日時	テーマ	講師
第1回	6月14日(土) 17:00～18:00	説明会 1. 博物館の概要 2. ボランティア活動について	大堀哲(館長) 野間誠二(統括マネージャー) 原田博二(研究所長)
第2回	6月21日(土) 17:00～18:00	ボランティアによる展示案内	荒瀨茂、池田正豊、中尾勇次、田中勝(ボランティア)
第3回	7月5日(土) 17:00～18:00	奉行所展示について	安高啓明(研究員)
第4回	7月26日(土) 17:00～18:00	歴史文化展示について 1	深瀬公一郎(研究員)
第5回	8月2日(土) 17:00～18:00	収蔵品について	越中勇(主任研究員)
第6回	8月23日(土) 17:00～18:00	美術・工芸展示について	植松有希(研究員)
第7回	9月13日(土) 17:00～18:00	歴史文化展示について 2	平岡隆二(主任研究員)
第8回	9月27日(土) 17:00～18:00	体験コーナーについて	平岡隆二(主任研究員) 一瀬勇士(研究員)
第9回	1月21日(水) 16:00～17:00	非常時の対応等	長崎市中央消防署職員
第10回	10月18日(土) 17:00～18:00	修了式、本登録の手続き	大堀哲(館長) 久保憲司(研究員)

41

ガイドボランティア養成研修(全4回)

	日時	テーマ	講師
第1回	4月28日(月) 17:30～18:30	美術・工芸展示について	植松有希(研究員)
第2回	4月30日(水) 17:30～18:30	大航海時代・オランダとの交流・長崎遊学・日本の近代化と長崎	平岡隆二(主任研究員)
第3回	5月2日(金) 17:30～18:30	朝鮮との交流・長崎貿易・貿易都市長崎・長崎警備	深瀬公一郎(研究員)
第4回	5月8日(木) 17:30～18:30	長崎奉行所ゾーンについて	安高啓明(研究員)

スキルアップ研修(計12回) 講師:原田博二(研究所長)

4月 17:00～19:00	地役人(「貿易都市長崎」)
5月 17:00～19:00	長崎と石橋
6月 17:00～19:00	シーボルトとそのコレクション
7月 17:00～19:00	芥川龍之介と河童屏風
8月 17:00～19:00	唐寺
9月 17:00～19:00	唐寺2・興福寺
10月 17:00～19:00	江戸時代の長崎貿易
11月 17:00～19:00	出島

12月 17:00~19:00	出島
1月 17:00~19:00	中国との交流・唐人屋敷
2月 17:00~19:00	黄檗宗
3月 17:00~19:00	ポルトガル船の来航 ~平戸開港から横瀬浦まで~

他博物館等視察・交流

- 5月 熊本城、佐賀県立佐賀城本丸歴史館見学
- 10月 佐賀県立名護屋城博物館、唐津城見学
- 12月 長崎県美術館、長崎原爆資料館、出島ボランティアとの交流会
- 3月 九州国立博物館ボランティア英語部会との交流会

平成 21 年度

	テーマ
4月 17:00 ~ 19:00	龍馬と長崎 一勝海舟・坂本龍馬関係年表一
5月 17:00 ~ 19:00	長崎と石橋
6月 17:00 ~ 19:00	長崎警備
7月 17:00 ~ 19:00	長崎街道
8月 17:00 ~ 19:00	浦上街道
9月 17:00 ~ 19:00	浦上街道 2・中国盆
10月 17:00 ~ 19:00	長崎派の絵画
11月 17:00 ~ 19:00	出島とその変遷
12月 17:00 ~ 19:00	新地とその変遷
1月 17:00 ~ 19:00	道教の美術展解説、黄檗宗と媽祖
2月 17:00 ~ 19:00	幕末の長崎
3月 17:00 ~ 19:00	居留地とその歴史

他博物館等視察・交流

- 11月 秋月城、太刀洗平和記念館見学

活動報告会・交流会

- 9月と3月に活動報告会・交流会を開催

平成 22 年度

新規ボランティア（第5期）研修

	日時	テーマ	講師
第1回	1月29日(土) 10:00~11:30	ボランティア活動について 博物館の概要・23年度予定	大堀哲(館長) 野間誠二(統括マネージャー)
第2回	1月30日(日) 10:00~13:00	ボランティア活動報告 奉行所展示	ボランティア 岡本健一郎(研究員)
第3回	2月19日(土) 10:00~13:00	歴史文化展示	深瀬公一郎(研究員) 植松有希(研究員)
第4回	2月27日(日) 10:00~13:00	歴史文化展示	岡本健一郎(研究員) 平岡隆二(主任研究員)
第5回	3月5日(土) 10:00~13:00	収蔵品について 資料の保存について	越中勇(主任研究員) 関裕典(研究員)
第6回	3月13日(日) 10:00~13:00	学校・こども対応について	加藤謙一(研究員) 下田幹子(研究員)
第7回	3月27日(日) 18:00~20:00	ボランティア登録について 交流会	

スキルアップ研修（計 15 回）

	テーマ	講師
4 月	幕末長崎古写真展内覧会	加藤謙一（研究員）
5 月	接遇研修（計 4 回）	中田貴子（株式会社 JTB ビジネスサポート）
6 月	朝鮮との交流について	岡本健一郎（研究員）
7 月	サンデー・マガジンの DNA 展内覧会	植松有希（研究員）
8 月	博物館展示と学校をつなぐ	加藤謙一（研究員）
9 月	オランダとの交流	平岡隆二（主任研究員）
10 月	実録坂本龍馬展内覧会	深瀬公一郎（研究員）
11 月	岩崎彌太郎展内覧会	岡本健一郎（研究員）
12 月	中国との交流	深瀬公一郎（当館研究員）
1 月	長崎の絵画	植松有希（研究員）
2 月	チャイナドレスと上海モダン展内覧会	平岡隆二（主任研究員）

活動報告会・交流会

3 月 活動報告会を開催

平成 23 年度

学校向けガイドボランティア研修

	日時	内容	講師
第 1 回	4 月 21 日（木） 15:00～16:30	展示室見学の現場を知る	加藤謙一（主任研究員） 下田幹子（研究員）
第 2 回	5 月 18 日（水） 15:00～16:30	学習内容と利用事例を知る	加藤謙一（主任研究員） 下田幹子（研究員）
第 3 回	6 月 25 日（土） 15:00～16:30	教師の視点からみた博物館学習	加藤謙一（主任研究員） 下田幹子（研究員）
第 4 回	7 月 20 日（水） 15:00～16:30	来館者研究の現在、他館事例の紹介	竹内有理（教育グループリーダー）

保存環境ボランティア研修

	日時	内容	講師
第 1 回	8 月 16 日（火） 10:30～12:00	博物館と資料保存	関裕典（研究員）
第 2 回	8 月 30 日（火） 11:00～12:00	古文書における害虫被害	富川敦子（研究員）
第 3 回	9 月 13 日（火） 11:00～12:00	環境モニタリングと機器の取り扱い	関裕典（研究員）
第 4 回	9 月 20 日（火） 11:00～12:00	ワークショップ（展示室内）	関裕典（研究員）

常設展示リニューアル研修

	日時	内容	講師
第 1 回	3 月 13 日（火） 10:00～12:00 3 月 17 日（土） 16:00～18:00	長崎奉行所について	当館研究員
第 2 回	3 月 13 日（火） 13:00～15:00 3 月 17 日（土） 10:00～12:00	歴史文化展示について 1	当館研究員
第 3 回	3 月 16 日（金） 10:00～12:00 3 月 18 日（日） 13:00～15:00	子供向け展示・情報端末について	当館研究員

第4回	3月31日(土) 14:00～15:00 3月31日(土) 16:00～17:00	歴史文化展示について2	当館研究員
-----	--	-------------	-------

スキルアップ研修

	日時	内容	講師
第1回	4月21日(木) 17:00～18:00	安野光雅の世界展内覧会	岡本健一郎(研究員)
第2回	6月15日(水) 17:00～18:00	長崎・寫眞傳來展内覧会	加藤謙一(主任研究員)
第3回	7月16日(土) 17:30～18:30	えびすリアリズム展内覧会	植松有希(研究員)
第4回	10月12日(水) 17:00～18:00	孫文・梅屋庄吉と長崎展内覧会	平岡隆二(主任研究員)
第5回	11月28日(月) 15:00～16:30	長崎奉行所について	岡本健一郎(研究員)

活動報告会・交流会、その他

日時	内容
8月31日(水) 15:00～16:00	学校ボランティア情報交換会
9月26日(月) 10:30～12:00	リニューアル・孫文展・長崎学研究プロジェクト説明会
9月27日(火) 17:00～18:30	リニューアル・孫文展・長崎学研究プロジェクト説明会
9月28日(水) 10月26日(水) 11月30日(水) 12月21日(水) 2月29日(水) 15:00～16:00	学校ボランティア情報交換会
3月6日(火) 17:00～20:00	活動報告会・交流会

平成24年度

保存環境ボランティア研修

	日時	内容	講師
第1回	2月12日(火) 13:30～15:00	活動内容の説明 博物館と資料保存	関裕典(研究員)
第2回	2月26日(火) 13:30～15:00	古文書における害虫被害	富川敦子(研究員)
第3回	3月12日(火) 13:30～15:00	環境モニタリングと機器の取り扱い	関裕典(研究員)
第4回	3月19日(火) 13:30～15:00	ワークショップ(展示室内)	関裕典(研究員)

常設展示リニューアル特別講座

	日時	内容	講師
第1回	5月25日(金) 17:00～18:30	近代化の魁・長崎コーナー	岡本健一郎(研究員)
第2回	5月30日(水) 17:00～18:30	西洋との出会いコーナー 朝鮮との交流コーナー	大石一久(研究Gリーダー) 岡本健一郎(研究員)
第3回	6月6日(水) 17:00～18:30	長崎貿易コーナー 中国との交流コーナー	深瀬公一郎(主任研究員)
第4回	6月13日(水) 17:00～18:30	長崎の暮らしコーナー オランダとの交流コーナー	岡本健一郎(研究員) 深瀬公一郎(主任研究員)

スキルアップ研修 (計 11 回)

	日時	内容	講師
第 1 回	4 月 22 日 (日) 17:00 ~ 18:00	ゾウ展内覧会	植松有希 (研究員)
第 2 回	6 月 20 日 (水) 17:00 ~ 18:00	美術展示室 (修復展) オランダコーナー	関裕典 (研究員) 山内勇輝 (研究員)
第 3 回	7 月 11 日 (水) 17:00 ~ 18:00	ドラえもん展内覧会	一瀬勇士 (研究員)
第 4 回	7 月 18 日 (水) 17:00 ~ 18:00	美術展示室 (上野彦馬)	岡本健一郎 (研究員)
第 5 回	8 月 22 日 (水) 17:00 ~ 18:00	故宮博物院展内覧会	岡本健一郎 (研究員)
第 6 回	9 月 19 日 (水) 17:00 ~ 18:00	美術展示室 (くんち) バックヤード	岡本健一郎 (研究員) 一瀬勇士 (研究員)
第 7 回	10 月 10 日 (水) 17:00 ~ 18:00	福建博物院展内覧会	深瀬公一郎 (主任研究員)
第 8 回	10 月 31 日 (水) 17:00 ~ 18:00	美術展示室 (新収蔵展) 西洋との出会いコーナー	植松有希 (研究員) 大石一久 (研究 G リーダー)
第 9 回	12 月 19 日 (水) 17:00 ~ 18:00	美術展示室 (お正月) 近代化コーナー	植松有希 (研究員) 岡本健一郎 (研究員)
第 10 回	1 月 16 日 (水) 17:00 ~ 18:00	エキゾチックジャパン展内覧会	深瀬公一郎 (主任研究員)
第 11 回	2 月 6 日 (水) 17:00 ~ 18:00	美術展示室 (長崎名所) 中国コーナー	山内勇輝 (研究員)

新規ボランティア (第 6 期) 研修

	日時	内容	講師
第 1 回	1 月 20 日 (日) 14:00 ~ 16:00	挨拶 長崎歴史文化博物館の概要 博物館の収蔵品について 歴史文化展示 (西洋との出会い)	大堀哲 (館長) 竹内有理 (教育普及 G リーダー) 越中勇 (主任研究員) 大石一久 (研究 G リーダー)
第 2 回	2 月 2 日 (土) 14:00 ~ 16:00	ボランティア活動の紹介と施設見学 歴史文化展示 (貿易・長崎の暮らし)	一瀬勇士 (研究員) 深瀬公一郎 (主任研究員)
第 3 回	2 月 10 日 (日) 14:00 ~ 16:00	歴史文化展示 (工芸・美術) 奉行所展示 (長崎奉行・キリシタン)	植松有希 (研究員) 岡本健一郎 (研究員)
第 4 回	2 月 24 日 (日) 14:00 ~ 16:00	歴史文化展示 (中国) 歴史文化展示 (オランダ・近代化)	深瀬公一郎 (主任研究員) 山内勇輝 (研究員)
第 5 回	3 月 17 日 (日) 14:00 ~ 16:00	資料の修復・保存について 博物館の教育活動について (こども・学校 対応)	久保憲司 (研究員)・関裕典 (研究員) 下田幹子 (研究員)・小熊佐智子 (研究員)
第 6 回	3 月 23 日 (土) 17:00 ~ 20:00	博物館における来館者との接客・接遇につ いて 交流会 (19:00 ~)	JTB ビジネスサポート 一瀬勇士 (研究員)

平成 25 年度

スキルアップ研修 (計 11 回)

	日時	内容	講師
第 1 回	4 月 10 日 (水) 14:30 ~ 15:30 15:30 ~ 16:00	和ガラスのきらめき展内覧会 美術展示室 (幸せを願う~五節句~)	植松有希 (研究員) 岡本健一郎 (研究員)
第 2 回	5 月 22 日 (水) 14:30 ~ 15:00 15:00 ~ 16:00	美術展示室 (名品選Ⅱ 山水に遊ぶ) 常設展示室	植松有希 (研究員) 深瀬公一郎 (主任研究員)
第 3 回	6 月 12 日 (水) 16:00 ~ 17:00	歌川国芳展内覧会	深瀬公一郎 (主任研究員)
第 4 回	7 月 3 日 (水) 14:30 ~ 15:00	美術展示室 (シーボルトの植物園)	山内勇輝 (研究員)
第 5 回	8 月 14 日 (水) 16:00 ~ 17:00	恐竜展 2013 展内覧会	関裕典 (研究員)

第6回	9月18日(水) 14:30~15:00	美術展示室(くんち三七九年展)	植松有希(研究員)
第7回	10月16日(水) 14:30~15:00	美術展示室(海の王都・原の辻展)	松見裕二(壱岐市教育委員会)
第8回	11月6日(水) 14:30~15:30	対馬藩と朝鮮通信使展内覧会	岡本健一郎(研究員)
第9回	1月15日(水) 14:30~15:30	魅惑の清朝陶磁展内覧会	植松有希(研究員)
第10回	1月15日(水) 15:30~16:00	美術展示室(絵図が語る世界像)	深瀬公一郎(主任研究員)
第11回	2月19日(水) 14:30~15:00	美術展示室(唐通事の世界)	植松有希(研究員)

ボランティア名簿

(2014年3月現在)

■展示案内ボランティア

第1期（平成17年度～）

荒濱 茂	白地 和幸	平川 辰興
池邊 文子	末永 榮子	福田 早葉子
石神 いつ子	田川 文夫	福田 哲也
泉田 正和	田中 勝	松本 淳美
泉田 昌俊	鴫田 暉子	松本 和子
板山 典子	友澤 宏之	間瀬 美保
今道 穎治	中尾 勇次	光武 妙子
岩永 加寿子	中嶋 豊	光富 博
老松 眞紀子	中村 薫	三丸 正紀
兼松 博子	中村 公三郎	宮崎 健
桜井 蓉子	中本 良一	湯藤 康子
川浪 英也	西本 浜路	吉沢 隆平
空閑 和美	西山 りょう子	吉田 勲
小松 由美	林 美智恵	吉田 敬三郎
三田 久美代	林田 直子	吉野 誠次
篠原 幹雄	原 和弘	吉原 麻由美
島内 真知子	原口 和代	

第2期（平成18年度～）

稲田 香苗	東海 安興	松谷 武利
末永 浩	金谷 さゆみ	本村 隆重

第3期（平成19年度～）

石橋 久美子	佐藤 喜代子	松尾 正次
稲田 雅厚	里村 恵津子	溝田 みどり
江越 弘人	相田 全民	村田 真弓
奥川 義孝	立山 幸見	八木 久雄
小畑 俊夫	藤本 篤子	山口 文子
小林 晃	古沢 喜代子	若杉 昭子

第4期（平成20年度～）

池田 直子	河内 恵子	馬場 公子
浦川 卓	武田 成子	別頭 幸子
大神 美智子	田中 保幸	松田 米人
嘉松 かめ代	中川 友昭	宮崎 芳子
川口 美智子	中牟田 晶子	山下 富久美

第5期（平成23年度～）

内田 武志	杉本 路哉	西田 廣子
川村 純子	田崎 晶子	原口 嘉子
白濱 聖子	徳永 正彦	久野 和代

福海 咲希 山田 一男
矢野 一芳 吉村 結子

第6期 (平成23年度～)

井戸 梢	長淵 千代蔵	三田村 嘉夫
上野 修和	西村 博	山口 ムキ子
江頭 玲子	橋爪 和広	山田 茂子
川原 真弓	橋爪 智子	山本 和世
隈本 久枝	浜辺 恵子	吉岡 ムリ
黒岩 靖子	服巻 昭徳	
佐藤 信子	真鍋 由美子	

活動を停止された方

第1期

有馬 佐恵子	上西 秀男	田中 安二郎
池崎 淑子	河合 亮輝	田端 光男
池角 久子	川口 真一郎	浜口 正志
池田 正豊	黒川 みゆき	眞野 正行
岩本 喜子	境 民子	宮下 栄
永川 道明	佐藤 眞一	宮田 修二
大川 ゆかり	田中 節子	山下 將能
小国 良子	田中 比月	渡部 富重

第2期

棚倉 はる子	藤 由美子
日宇 孝良	山下 哲郎

第3期

天野 一朗	長船 恵美	山崎 睦枝
井手 新吾	高 芳	山口 由香里
岡田 望	小島 瑞穂	
岡部 さつき	松尾 博之	

第4期

麻生 美香	白地 弘奈
金子 祐子	武藤 治子

第5期

網代 倭彦	城谷 優子	原田 佐英子
石井 眞理子	瀬戸口 美保	森 直子

■寸劇ボランティア

太田 泉	河上 達也	鶴田 敬子
坂田 みち子	田中 勇三	小柳 幸良
田口 寿恵子	横山 定俊	小松 美紀
竹之内 ハルエ	松崎 進	松岡 結
松岡 亜由美	小林 晃	加藤 健太郎

以前登録されていた方

伊藤 武治	城門 光	山崎 敏博
後田 吾一郎	松本 公平	月足 衣里
内野 節雄	平坂 友樹	井田 清佳
田中 勝	今村 伸一	内田 育子
野上 富国	石飛 明宏	木村 加世子
平井 啓次郎	本村 隆重	中間 聖
三丸 正紀	川田 慶子	稲田 敦子
守川 速男	富永 安夫	洪 銀永
横田 智宏	池崎 良嗣	野崎 紗友里
宮下 幾久雄	長野 恵美	姉川 タイ子
宮原 一生	久保山 龍志	小川 美穂
吉田 勲	嶋澤 里美	村上 裕紀
有馬 佐恵子	下口 将美	中尾 元気
大西 智子	倉田 弘子	竹谷 比呂稀
尾崎 彩華	毎熊 キミ子	竹谷 章子
古賀 昭子	桑原 勢津子	藤原 たず子
阪野 ツル子	鶴田 博久	中野 幾美
山崎 綾乃	福森 裕太	

演技指導・脚本

本山 善彦	本山 早苗
-------	-------

長崎歴史文化博物館のボランティア業務は以下の職員が担当した。

矢野 香織（元教育グループ研究員）（平成17年度～平成19年度）

出口 亮太（元教育グループ研究員）（平成17年度～平成18年度）

久保 憲司（元教育グループ研究員）（平成18年度～平成23年度）

一瀬 勇士（元教育普及グループ研究員）（平成20年度～平成24年度）

古豊 裕次郎（教育普及グループ研究員）（平成25年度～）

保存環境ボランティアの運営に関する業務は以下の職員が担当している。

関 裕典（研究グループ研究員）

久保 憲司（研究グループ研究員）

執筆

竹内 有理（教育普及グループリーダー）

荒濱 茂（ボランティア）

田崎 晶子（ボランティア）

服巻 昭徳（ボランティア）

吉沢 隆平（ボランティア）

湯藤 康子（ボランティア）

稲田 香苗（ボランティア）

吉村 結子（ボランティア）

小林 晃（ボランティア）

一瀬 勇士（別府大学大学院博士前期課程）

企画・構成

竹内 有理

編集協力

古豊 裕次郎

道下 舞子

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
地域との連携ーボランティアー
2005～2013

発行日

2014年3月31日

発行

長崎歴史文化博物館

〒850-0007 長崎市立山1-1-1

Tel 095-818-8366

印刷

日本紙工印刷株式会社



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture